

## NEWS LETTER (調査レポート)

### ソニー生命調べ／20代・30代の共働き世帯の男女1,000名にアンケート **20代・30代共働き夫婦の生活意識調査 2025**

結婚前の交際期間は平均 3.1 年、  
出会ったきっかけが「マッチングアプリ」「SNS」の場合は平均 2.7 年  
家庭の毎月の生活費 平均は 14.9 万円、「把握していない」は 25%

家庭の毎月の貯蓄・資産運用額 平均は 9.9 万円、  
実践している貯蓄・資産運用の方法 1位「預金・貯金」48%、2位「投資信託」41%

誰が家事を担当している？ 「主に夫」15%、「主に妻」53%、「夫婦平等に分担」25%  
北陸・甲信越では「夫婦平等に分担」が高い傾向

家事の負担を軽減するために行っていること  
1位「まとめ買い」2位「冷凍食品の利用」3位「外食・テイクアウトの利用」

「老後も今の配偶者と一緒に暮らしたい」夫の 51%、妻では 60%

“理想の夫”だと思う芸能人「杉浦太陽さん」、  
“理想の妻”だと思う芸能人「辻希美さん」、  
夫婦で 1 位に

ソニー生命では、20代・30代の共働き夫婦の意識と実態を明らかにするため、「20代・30代共働き夫婦の生活意識調査」を行いましたので、お知らせいたします。

#### ■ POINT 1

⇒結婚前の交際期間は平均 3.1 年、出会ったきっかけが「マッチングアプリ」「SNS」の場合は平均 2.7 年

全回答者(1,000名)に、自分たち夫婦の結婚前の交際期間を聞いたところ、「1年未満」(17.0%)や「1年～3年未満」(44.8%)、「3年～5年未満」(24.0%)に回答が集まり、平均は 3.1 年でした。(p.3)

最初に出会ったきっかけが「マッチングアプリ」「SNS」の人(170名)について、結婚前の交際期間をみると、平均は 2.7 年となり、全体(3.1年)と比べて 0.4 年短くなりました。(p.4)

#### ■ POINT 2

⇒家庭の毎月の生活費 平均は 14.9 万円、「把握していない」は 25%

全回答者(1,000名)に、家庭の毎月の生活費(食費、住居費、水道光熱費、日用品費、被服費、美容費、医療費、交通費、通信費、教育費、娯楽費などの合計。貯蓄・資産運用額は除く)を聞いたところ、「5万円～10万円未満」(13.7%)や「10万円～15万円未満」(13.1%)、「15万円～20万円未満」(12.0%)に回答が集まり、平均は 14.9 万円でした。また、「わからない(把握していない)」は 24.9%となりました。(p.10)

#### ■ POINT 3

⇒家庭の毎月の貯蓄・資産運用額 平均は 9.9 万円、

実践している貯蓄・資産運用の方法 1位「預金・貯金」48%、2位「投資信託」41%

全回答者(1,000名)に、家庭の毎月の貯蓄・資産運用額を聞いたところ、「わからない(把握していない)」が 32.1%と特に高くなったほか、「3万円未満」(12.4%)や「3万円～5万円未満」(13.1%)、「5万円～10万円未満」(13.8%)にも回答が集まり、平均は 9.9 万円でした。(p.13)

貯蓄・資産運用をしている人(641名)に、自身の家庭では、どのような方法で貯蓄・資産運用をしているか聞いた

## NEWS LETTER (調査レポート)

ところ、「預金・貯金」(48.2%)が最も高くなり、「投資信託(NISA のつみたて投資枠など)」(41.0%)、「株式投資」(24.0%)、「個人年金保険」(18.3%)、「財形貯蓄」「暗号資産(仮想通貨)投資」(いずれも 12.5%)が続きました。(p.14)

### POINT 4

⇒ **誰が家事を担当している？「主に夫」15%、「主に妻」53%、「夫婦平等に分担」25%  
北陸・甲信越では「夫婦平等に分担」が高い傾向**

全回答者(1,000名)に、自身の家庭では、主に誰が家事を担当しているか聞いたところ、「主に夫」は15.4%、「主に妻」は52.6%、「夫婦平等に分担」は25.0%、「主に親・義理の親」は4.1%、「主にハウスキーパー・家事代行」は2.9%となりました。

居住エリア別にみると、東海と中国・四国、九州・沖縄では「主に妻」(順に60.8%、60.5%、65.4%)、北陸・甲信越では「夫婦平等に分担」(31.6%)がそれぞれ他の居住エリアと比べて高くなりました。(p.16)

### POINT 5

⇒ **家事の負担を軽減するために行っていること  
1位「まとめ買い」2位「冷凍食品の利用」3位「外食・テイクアウトの利用」**

全回答者(1,000名)に、自身の家庭で、家事の負担を軽減するために行っていることを聞いたところ、「まとめ買い」(31.5%)が最も高くなり、「冷凍食品の利用」(27.0%)、「外食・テイクアウトの利用」(22.0%)、「レトルト食品の利用」(21.3%)、「食器洗い乾燥機の利用」(18.8%)が続きました。(p.18)

### POINT 6

⇒ **「老後も今の配偶者と一緒に暮らしたい」夫の51%、妻では60%**

全回答者(1,000名)に、老後の生活や配偶者への思いについて聞くと、「老後も今の配偶者と一緒に暮らしたいか」は、「一緒に暮らしたい」が55.2%と半数を超えました。男女別にみると、「一緒に暮らしたい」と回答した人の割合は、男性50.8%、女性59.6%と、女性のほうが8.8ポイント高くなりました。(p.25)

### POINT 7

⇒ **“理想の夫”だと思う芸能人「杉浦太陽さん」、 “理想の妻”だと思う芸能人「辻希美さん」、夫婦で1位に**

全回答者(1,000名)に、“理想の夫・妻”のイメージに合う芸能人を聞きました。

“理想の夫”だと思う芸能人では、1位「杉浦太陽さん」、2位「DAIGOさん」、3位「ヒロミさん」、4位「庄司智春さん」、5位「木村拓哉さん」「反町隆史さん」となりました。

“理想の妻”だと思う芸能人では、1位「辻希美さん」、2位「藤本美貴さん」、3位「北川景子さん」、4位「松嶋菜々子さん」、5位「佐々木希さん」となりました。

2024年11月に愛娘の希空さんがYouTubeで完全顔出ししたことでも注目を集めている、杉浦太陽さん・辻希美さんが夫婦揃って1位となりました。(p.29)

**NEWS LETTER (調査レポート)**

## ◆エコノミストのコメント◆

ソニーフィナンシャル  
グループ株式会社  
金融市場調査部長  
シニアエコノミスト  
渡辺 浩志



「家計調査(総務省、令和5年分)」によれば、20代・30代の勤労世帯の消費支出は、ひと月当たり約26万円。これに対して、今回調査の「家庭の毎月の生活費(図12)」は、平均14.9万円とかなり低く出ています。なぜこのような差が生じたのか。その一因は、毎月の生活費について「わからない(把握していない)」と答えた世帯が約25%にも上ったことにありそうです。生活費を把握していない世帯とは、財布を気にせず支出できる世帯でもあり、この層を除いて計算した平均値は低く出やすかったのでしょうか。

では、20代・30代の共働き世帯の収入はどれほどでしょうか。「民間給与実態統計調査(国税庁、令和5年分)」を基に試算すると、夫婦合わせた年収は約761万円、税や社会保険料を差し引いた手取りベースの月収は51万円ほどになりました。夫だけが働く片働き世帯では、年収は約439万円、手取り月収は約29万円です。これに比べるとダブルインカムの共働き世帯はおカネの面ではゆとりがあり、それゆえ生活費について「わからない」との答えが多かったようです。逆に、ゆとりがないのは時間の方でしょう。夫婦とも忙しく働きながら家事や育児をこなすのは大変なことであり、工夫が必要です。「自分の家庭で、家事の負担を軽減するために行っていること(図24)」には、様々な時短テクニックが並びました。一昔前なら「手抜き」と否定的に捉えられたようなことも、いまでは時間を捻出するための「手間抜き」として賢く活用されているようです。

「毎月の生活費の中で一番大きな出費になっているもの(図15)」は、住居費、食費、日用品費などでした。円安による輸入物価の上昇や、日銀の利上げに伴う住宅ローン金利の上昇が見込まれるなか、これらの出費は今後さらに重くなるでしょう。また、今はまだ軽い「教育費」も、夫婦が40代に入る頃には、子どもの進級や進学とともに大きく増加することが予想されます。そのため、今のうちから毎月の収支をしっかりと把握し、将来のライフイベントに備えた資産形成を進めることが重要です。

「自身の家庭では、どのような方法で貯蓄・資産運用をしているか(図19)」では、預貯金に加え、新NISAを活用した投資信託や株式投資も上位に並びました。他方、暗号資産や不動産投資、FX、金投資など、非伝統的な投資対象にも幅広く資金が振り向けられている点は意外でした。これが長期の資産形成に向けた分散投資なのか、短期の価格変動に賭ける投機なのかはわかりませんが、いずれにせよ、値動きが大きい資産に投資する際は、十分な金融知識を持って臨むことが大切です。インターネット上には投資指南の動画や記事があふれていますが、その中には誤った情報もたくさんあります。「家計のことを相談する相手(図21)」は、主に配偶者や親・義理の親でしたが、ファイナンシャルプランナーなどのお金の専門家も活用しながら金融知識を磨き、情報を選別していくことが望まれます。

**NEWS LETTER (調査レポート)****20代・30代共働き夫婦の生活意識調査 2025**

このたび、ソニー生命保険株式会社(代表取締役社長 高橋 薫)は、2024年11月15日~11月26日の12日間、全国の有職の配偶者(20歳~39歳。事実婚含む)がいる20歳~39歳の有職者に対し、「20代・30代共働き夫婦の生活意識調査」をインターネットリサーチで実施し、1,000名(男性500名、女性500名)の有効サンプルの集計結果を公開しました。(調査協力会社: ネットエイジア株式会社)

**【20代・30代共働き夫婦の結婚前の交際期間、同棲期間】**

20代・30代共働き夫婦の結婚前の交際期間は平均3.1年、同棲期間は平均0.7年

最初に出会ったきっかけ 1位「職場」2位「友人の紹介」3位「学校」4位「マッチングアプリ」5位「飲み会・合コン」

最初に出会ったきっかけが“マッチングアプリ”“SNS”の人では結婚前の交際期間は平均2.7年

結婚の決め手になったこと 1位「人柄」2位「価値観」3位「容姿」4位「礼儀正しさ」5位「食の好み」

**【20代・30代共働き夫婦の生きがい・趣味】**

生きがいになっているもの 1位「家族」2位「趣味」3位「食事・お酒」4位「友人との交流」5位「仕事」

20代男性では「ボランティア」が高い傾向

**自身の趣味 TOP3**

20代男性は「スポーツ」「ゲーム」「アニメ・漫画」、30代男性は「旅行」「スポーツ」「アニメ・漫画」、

20代女性は「旅行」「外食」「美容・ファッション」、30代女性は「旅行」「外食」「アニメ・漫画」

**【20代・30代共働き夫婦の家計に関する意識・実態】**

誰が家計を管理している? 「主に夫」28%、「主に妻」44%、「夫婦別々」20%

東海と近畿では「主に夫」、北陸・甲信越では「夫婦別々」が高い傾向

家庭の毎月の生活費 平均は14.9万円、「把握していない」は25%

誰の収入で生活費を負担している? 「主に夫」55%、「主に妻」12%、「夫婦平等に負担」30%

東海と近畿では「主に夫」、中国・四国では「夫婦平等に負担」が高い傾向

毎月の生活費の中で一番大きな出費になっているもの 1位「住居費」2位「食費」3位「日用品費」

家庭の毎月の貯蓄・資産運用額 平均は9.9万円、「把握していない」は32%

実践している貯蓄・資産運用の方法 1位「預金・貯金」48%、2位「投資信託」41%

「家計のことを相談する相手がいる」73%

相談する相手 1位「配偶者」2位「親・義理の親」3位「友人」4位「お金の専門家」5位「職場の同僚・上司」

**【20代・30代共働き夫婦の家事に関する意識・実態】**

誰が家事を担当している? 「主に夫」15%、「主に妻」53%、「夫婦平等に分担」25%

北陸・甲信越では「夫婦平等に分担」が高い傾向

家事の分担に関する意識 「もっと自分が担当しなければならないと思う」妻の37%、夫では63%

「もっと配偶者に分担してもらいたい」夫の38%、妻では52%

## NEWS LETTER (調査レポート)

家事の負担を軽減するために行っていること

1位「まとめ買い」2位「冷凍食品の利用」3位「外食・テイクアウトの利用」

### 【20代・30代共働き夫婦の育児に関する意識・実態】

理想的だと考える子どもの人数「2人」が52%で最多回答、20代男性では「1人」が高い傾向

誰が育児・子育てを担当している？「主に夫」8%、「主に妻」52%、「夫婦平等に分担」34%

北陸・甲信越では「夫婦平等に分担」が高い傾向

育児・子育ての分担に関する意識「もっと自分が担当しなければならないと思う」ママの33%、パパでは65%

「もっと配偶者に分担してもらいたい」パパの36%、ママでは58%

男性は家事・育児に関する有償サービスの利用意向が高い？

「ベビーシッター・家事代行を利用したい」ママの26%、パパでは40%

育児・子育てで大変だと感じていること

1位「育児と仕事の両立」2位「子どもとの接し方」3位「子どもの健康・栄養管理」

子どものどのような言動・様子に癒されたことがある？

1位「顔を見たらニコニコしてくれる」2位「『パパ・ママ大好き』と言う」3位「寝ているときにくっついてくる」

### 【20代・30代共働き夫婦の夫婦関係】

夫婦関係に関する意識「夫婦関係は良好」59%、「今後、夫婦関係を今より良くしたい」42%

今の配偶者と結婚した率直な感想は？ 55%が「満足」と回答

配偶者が転居を伴う転勤になったら？「単身赴任してもらおう」夫の22%、妻では30%

子どもがいる人では「単身赴任」の意向が高くなる傾向

「老後も今の配偶者と一緒に暮らしたい」夫の51%、妻では60%

妻に対して抱くギャップ 結婚前の期待を上回っていると感じること 1位「家事力」、

結婚前の期待を下回っていると感じること 1位「お金の使い方」

夫に対して抱くギャップ 結婚前の期待を上回っていると感じること 1位「やさしさ・包容力」、

結婚前の期待を下回っていると感じること 1位「容姿・体型」

夫婦喧嘩の原因TOP5「言葉遣い・態度」「お金の使い方」「子どものしつけ・教育」「家事分担」「休日の過ごし方」

子どもがいる人では「子どものしつけ・教育」が1位に

共働き夫婦の夫婦円満の秘訣は？

1位「会話する・コミュニケーションをとる」2位「お互いを思いやる」3位「家事・育児を分担する」

### 【“理想の夫・妻”だと思ふ芸能人】

“理想の夫”だと思ふ芸能人 1位「杉浦太陽さん」2位「DAIGOさん」3位「ヒロミさん」

“理想の妻”だと思ふ芸能人 1位「辻希美さん」2位「藤本美貴さん」3位「北川景子さん」

# NEWS LETTER (調査レポート)

## アンケート調査結果

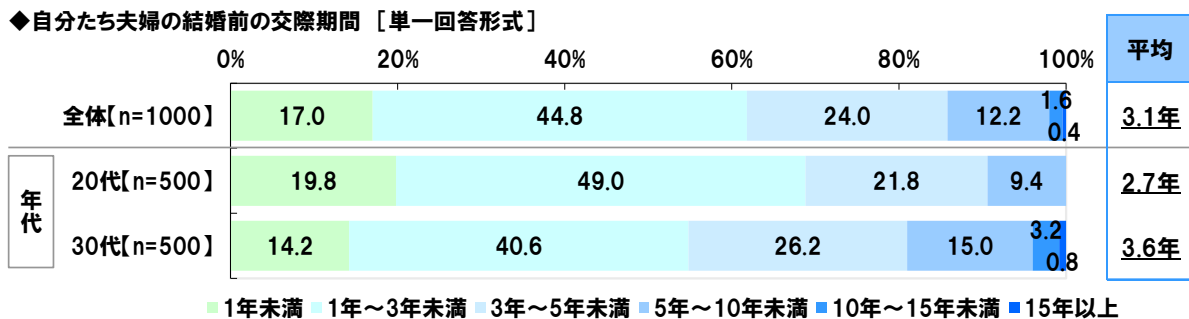
### 【20代・30代共働き夫婦の結婚前の交際期間、同棲期間】

#### ◆20代・30代共働き夫婦の結婚前の交際期間は平均3.1年、同棲期間は平均0.7年

全国の有職の配偶者(20歳～39歳。事実婚含む)がいる20歳～39歳の有職者1,000名(全回答者)に、結婚前の交際期間、同棲期間について質問しました。

まず、全回答者(1,000名)に、自分たち夫婦の結婚前の交際期間を聞いたところ、「1年未満」(17.0%)や「1年～3年未満」(44.8%)、「3年～5年未満」(24.0%)に回答が集まり、平均は3.1年でした。

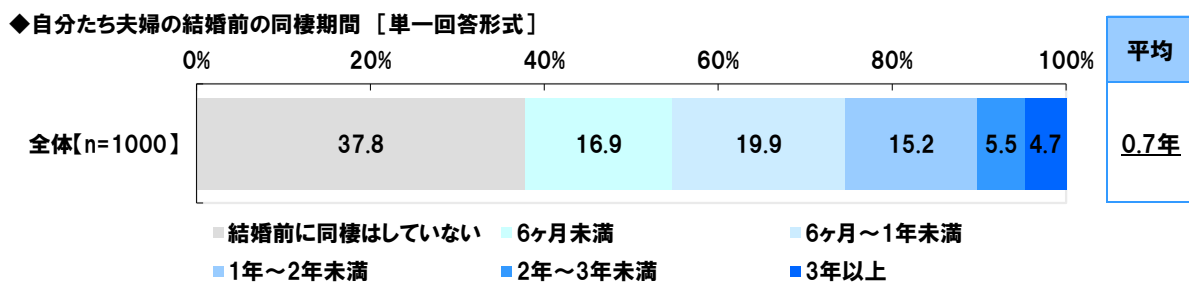
年代別にみると、交際期間の平均は、20代2.7年、30代3.6年と、20代のほうが0.9年短くなりました。(図1)



結婚前の同棲期間を聞いたところ、「結婚前に同棲はしていない」が37.8%で最も高くなった一方、同棲を行っていた回答についてみると、「6ヶ月未満」(16.9%)や「6ヶ月～1年未満」(19.9%)に回答が集まり、平均は0.7年でした。

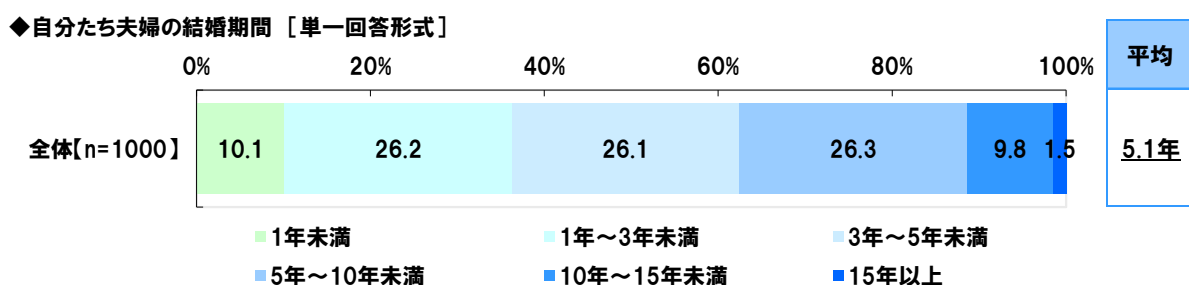
(図2)

(図2)



また、結婚期間については、「1年～3年未満」(26.2%)や「3年～5年未満」(26.1%)、「5年～10年未満」(26.3%)に回答が集まり、平均は5.1年でした。(図3)

(図3)



# NEWS LETTER (調査レポート)

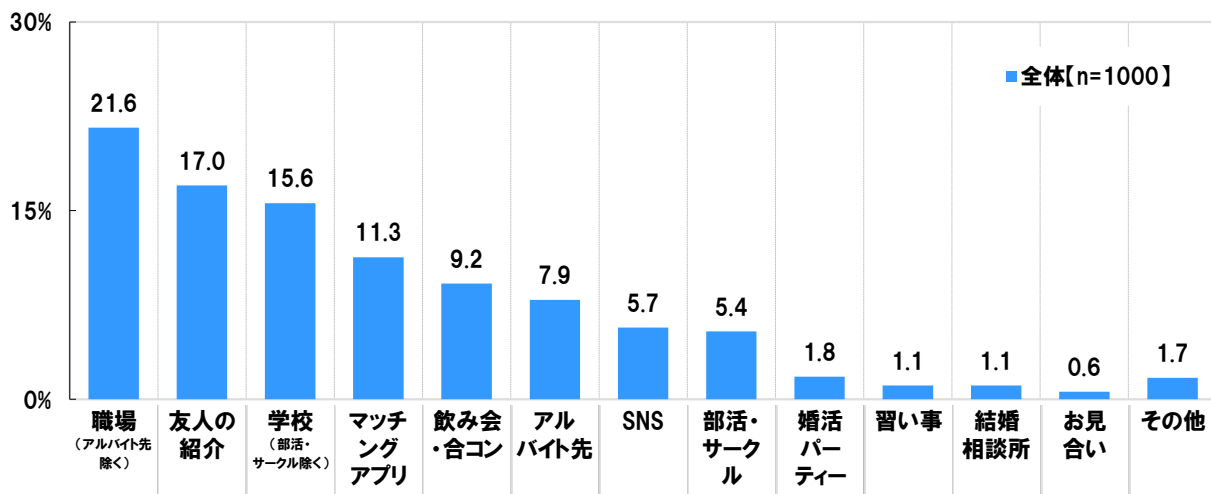
- ◆最初に会ったきっかけ 1位「職場」2位「友人の紹介」3位「学校」4位「マッチングアプリ」5位「飲み会・合コン」
- ◆最初に会ったきっかけが「マッチングアプリ」「SNS」の人では結婚前の交際期間は平均 2.7 年

続いて、会ったきっかけと結婚の決め手について質問しました。

最初に会ったきっかけを聞いたところ、「職場(アルバイト先除く)」(21.6%)が最も高くなりました。職場恋愛が多いようです。次いで高くなったのは、「友人の紹介」(17.0%)、「学校(部活・サークル除く)」(15.6%)、「マッチングアプリ」(11.3%)、「飲み会・合コン」(9.2%)でした。(図4)

(図4)

◆自分たち夫婦が最初に会ったきっかけ [単一回答形式]

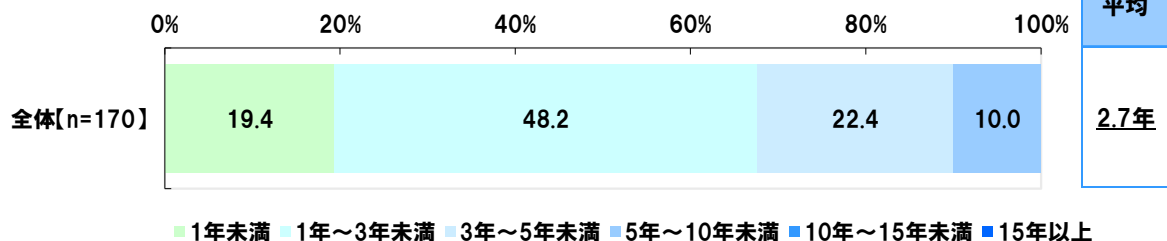


ここで、最初に会ったきっかけが「マッチングアプリ」「SNS」の人(170名)について、結婚前の交際期間をみると、平均は2.7年となり、全体(3.1年)と比べて0.4年短くなりました。(図5)

(図5)

◆自分たち夫婦の結婚前の交際期間 [単一回答形式]

\*最初に会ったきっかけが「マッチングアプリ」「SNS」の人がベース



## NEWS LETTER (調査レポート)

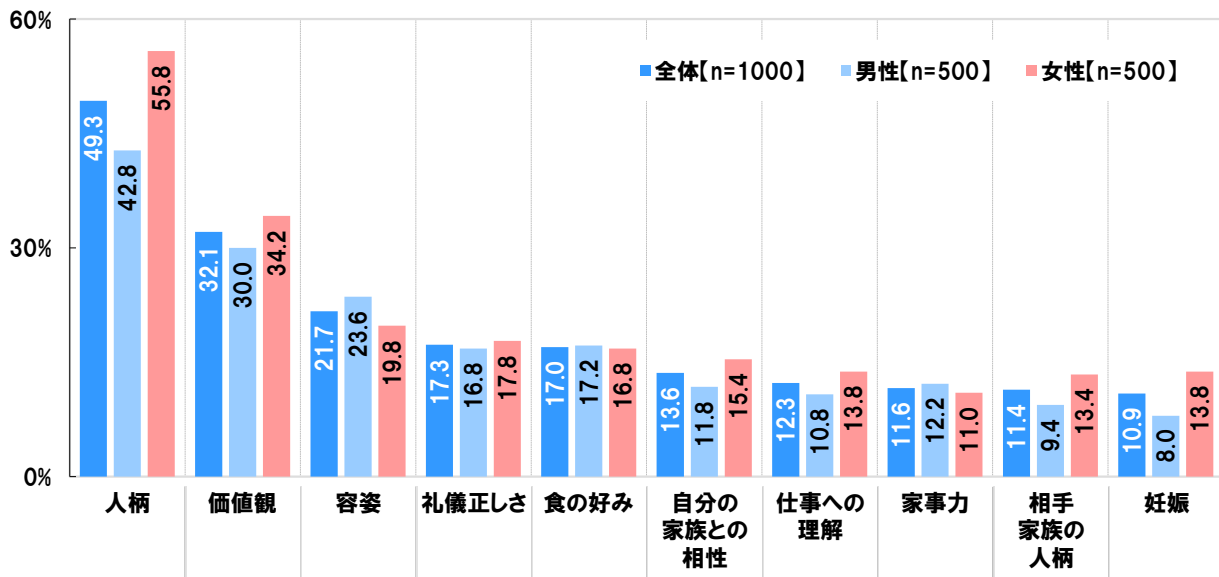
### ◆結婚の決め手になったこと 1位「人柄」2位「価値観」3位「容姿」4位「礼儀正しさ」5位「食の好み」

“この人と結婚しよう！”と思った結婚の決め手になったことを聞いたところ、「人柄」(49.3%)が最も高くなり、「価値観」(32.1%)、「容姿」(21.7%)、「礼儀正しさ」(17.3%)、「食の好み」(17.0%)が続きました。

男女別にみると、女性では「人柄」が55.8%と、男性(42.8%)と比べて10ポイント以上高くなりました。(図6)

(図6)

◆“この人と結婚しよう！”と思った結婚の決め手になったこと [複数回答形式] ※上位10位までを表示





## NEWS LETTER (調査レポート)

### 【20代・30代共働き夫婦の生きがい・趣味】

◆生きがいになっているもの 1位「**家族**」2位「**趣味**」3位「**食事・お酒**」4位「**友人との交流**」5位「**仕事**」

20代男性では「ボランティア」が高い傾向

生きがいや趣味について質問しました。

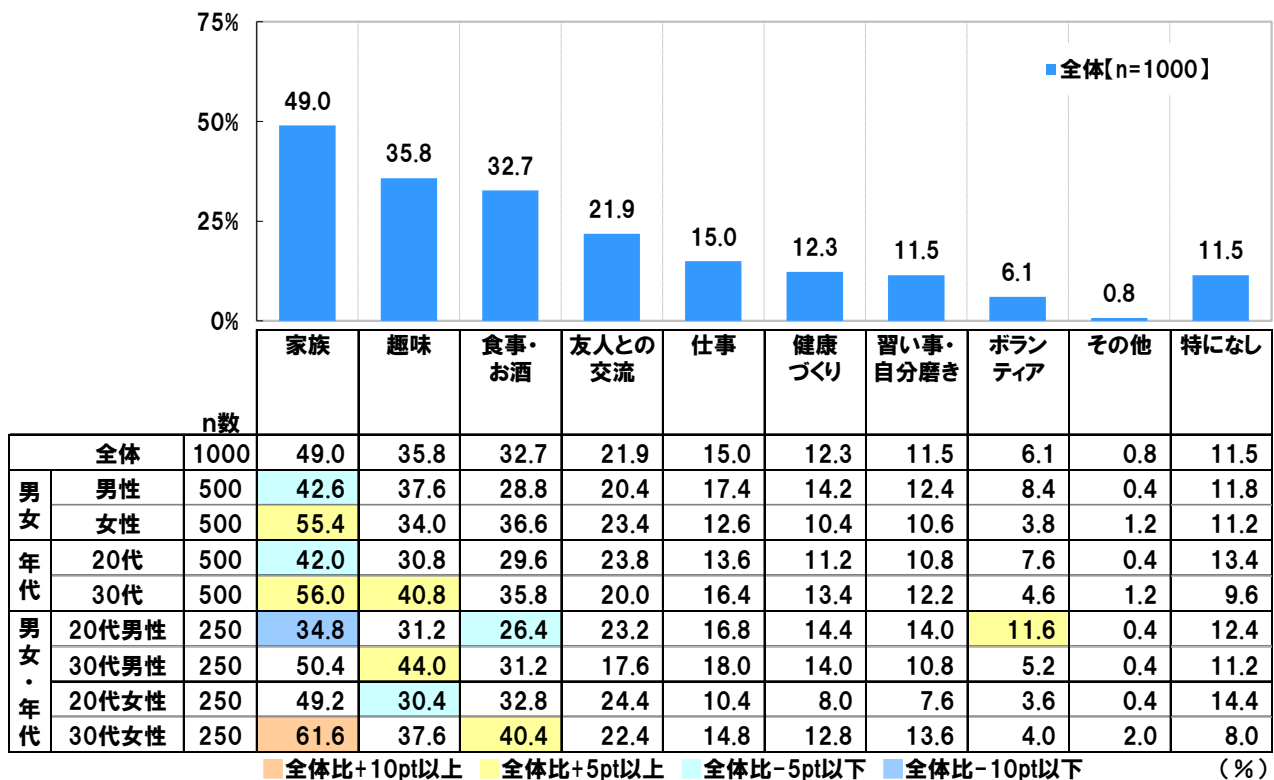
全回答者(1,000名)に、生きがいになっているものを聞いたところ、「**家族**」(49.0%)が最も高くなりました。家族がかけがえのない大切な存在だと感じている人が多いのではないのでしょうか。次いで高くなったのは、「**趣味**」(35.8%)、「**食事・お酒**」(32.7%)、「**友人との交流**」(21.9%)、「**仕事**」(15.0%)でした。

男女別にみると、女性では「**家族**」は55.4%と、男性(42.6%)と比べて10ポイント以上高くなりました。

男女・年代別にみると、20代男性では「**ボランティア**」(11.6%)が他の層と比べて高くなる傾向がみられました。(図7)

(図7)

◆生きがいになっているもの [複数回答形式]

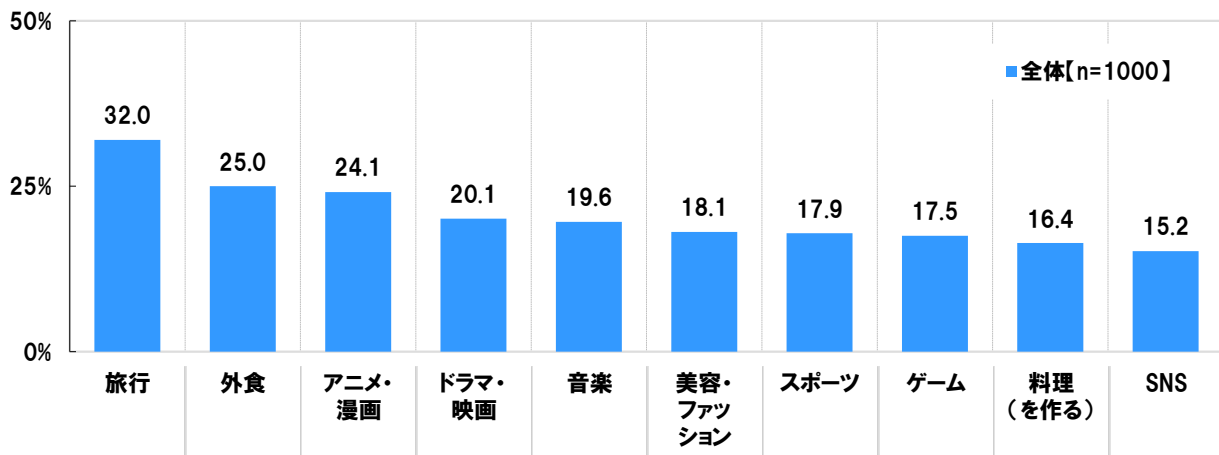


**NEWS LETTER (調査レポート)**
**◆自身の趣味 TOP3**

20代男性は「スポーツ」「ゲーム」「アニメ・漫画」、30代男性は「旅行」「スポーツ」「アニメ・漫画」、  
20代女性は「旅行」「外食」「美容・ファッション」、30代女性は「旅行」「外食」「アニメ・漫画」

また、自身の趣味を聞いたところ、「旅行」(32.0%)が最も高くなり、「外食」(25.0%)、「アニメ・漫画」(24.1%)、「ドラマ・映画」(20.1%)、「音楽」(19.6%)が続きました。(図8)

(図8)

**◆自身の趣味 [複数回答形式] ※上位10位までを表示**


男女・年代別にみると、20代男性では「スポーツ」(24.4%)、30代男性と20代女性、30代女性では「旅行」(順に30.4%、35.2%、41.2%)が1位でした。2位と3位をみると、20代男性では2位「ゲーム」(23.6%)、3位「アニメ・漫画」(22.8%)、30代男性では2位「スポーツ」(29.6%)、3位「アニメ・漫画」(24.4%)、20代女性では2位「外食」(28.4%)、3位「美容・ファッション」(26.4%)、30代女性では2位「外食」(37.6%)、3位「アニメ・漫画」(29.2%)という結果になりました。(図9)

(図9)

**◆自身の趣味 [複数回答形式] ※上位10位までを表示**

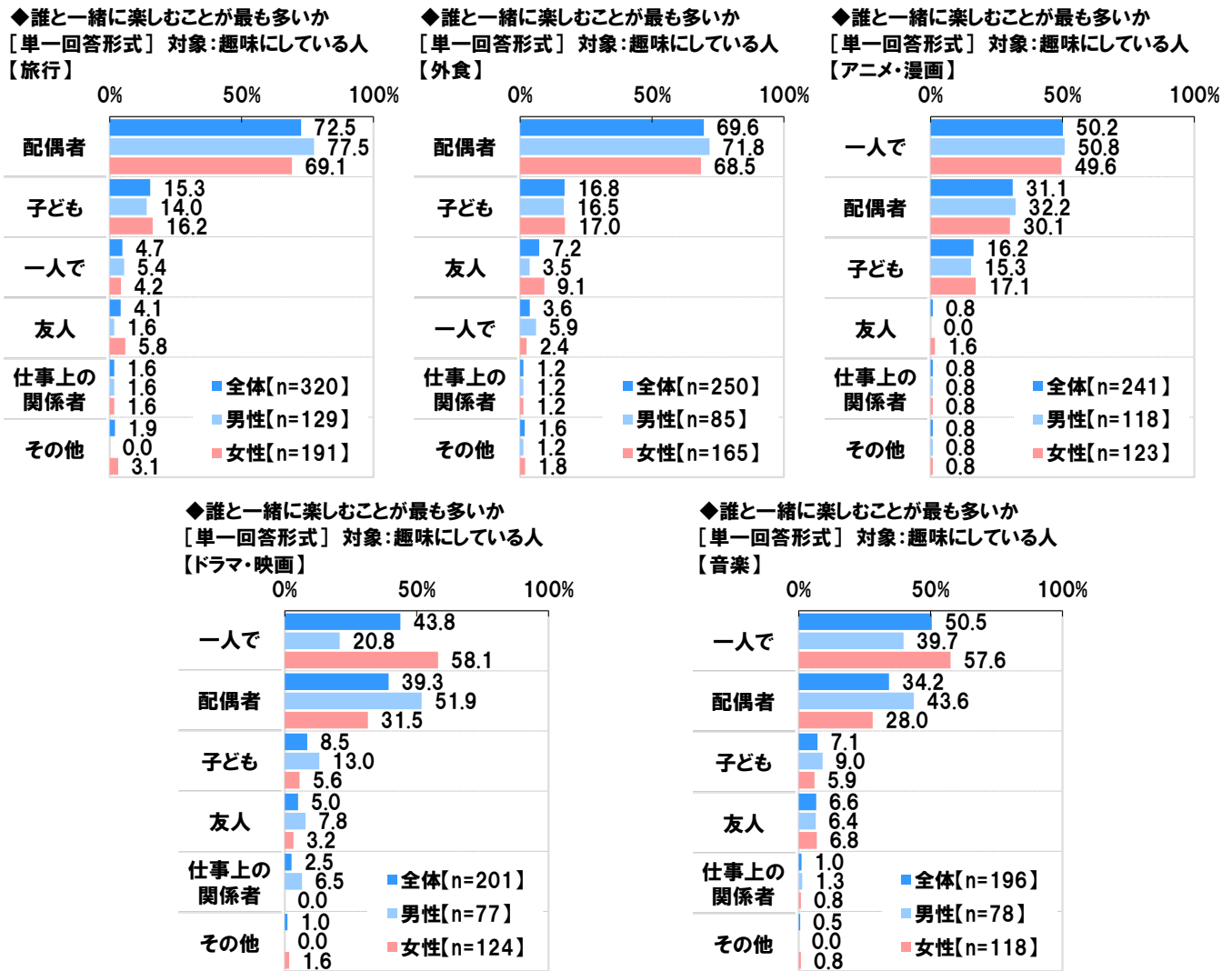
20代男性[n=250]			30代男性[n=250]			20代女性[n=250]			30代女性[n=250]		
順位	趣味	%	順位	趣味	%	順位	趣味	%	順位	趣味	%
1位	スポーツ	24.4	1位	旅行	30.4	1位	旅行	35.2	1位	旅行	41.2
2位	ゲーム	23.6	2位	スポーツ	29.6	2位	外食	28.4	2位	外食	37.6
3位	アニメ・漫画	22.8	3位	アニメ・漫画	24.4	3位	美容・ファッション	26.4	3位	アニメ・漫画	29.2
4位	旅行	21.2	4位	外食	20.4	4位	ドラマ・映画	21.6	4位	ドラマ・映画	28.0
5位	ドライブ	20.4	5位	ゲーム	19.2	4位	料理(を作る)	21.6	5位	美容・ファッション	27.6
6位	音楽	14.0	6位	資産運用	17.6	6位	音楽	20.8	6位	音楽	26.4
6位	ギャンブル	14.0	6位	ドラマ・映画	17.2	7位	アニメ・漫画	20.0	6位	SNS	19.6
8位	外食	13.6	7位	音楽	17.2	8位	SNS	18.4	7位	SNS	19.6
8位	ドラマ・映画	13.6	9位	ギャンブル	15.2	8位	推し活	16.4	8位	料理(を作る)	19.2
10位	資産運用	13.2	10位	ドライブ	13.6	9位	推し活	16.4	9位	読書	16.4
						10位	ゲーム	13.2	10位	推し活	14.4
						10位	ペット	13.2			

# NEWS LETTER (調査レポート)

趣味として挙げた全体の上位 5 項目について、それぞれ趣味として挙げた人に、誰と一緒に楽しむことが最も多いか聞いたところ、【旅行】と【外食】では「配偶者」(順に 72.5%、69.6%)、【アニメ・漫画】【ドラマ・映画】【音楽】では「一人で」(50.2%、43.8%、50.5%)が最も高くなりました。

男女別にみると、男性では【ドラマ・映画】と【音楽】で「配偶者」(51.9%、43.6%)が最も高くなりました。(図 10)

(図 10)



# NEWS LETTER (調査レポート)

## 【20代・30代共働き夫婦の家計に関する意識・実態】

### ◆誰が家計を管理している？「主に夫」28%、「主に妻」44%、「夫婦別々」20%

東海と近畿では「主に夫」、北陸・甲信越では「夫婦別々」が高い傾向

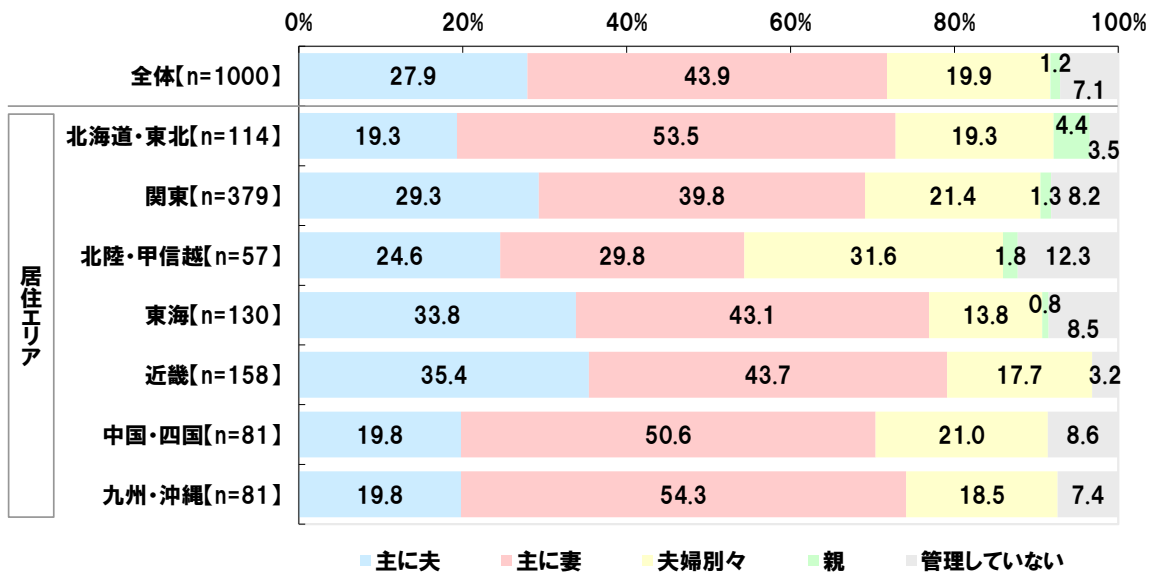
家計について質問しました。

全回答者(1,000名)に、自身の家庭では、誰が家計を管理しているか聞いたところ、「主に夫」は27.9%、「主に妻」は43.9%、「夫婦別々」は19.9%、「親」は1.2%、「管理していない」は7.1%となりました。妻が家計管理を担っている家庭が多いようです。

居住エリア別にみると、東海と近畿では「主に夫」(順に33.8%、35.4%)、北海道・東北と中国・四国、九州・沖縄では「主に妻」(53.5%、50.6%、54.3%)、北陸・甲信越では「夫婦別々」(31.6%)がそれぞれ他の居住エリアと比べて高くなりました。(図11)

(図11)

#### ◆自身の家庭では、誰が家計を管理しているか [単一回答形式]



## NEWS LETTER (調査レポート)

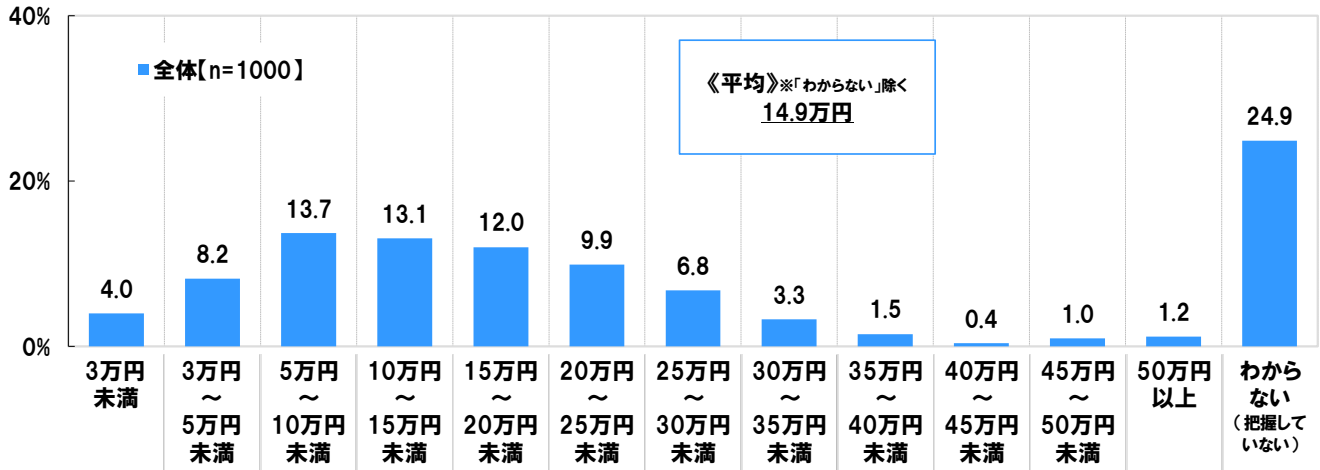
### ◆家庭の毎月の生活費 平均は14.9万円、「把握していない」は25%

次に、毎月の生活費について質問しました。

全回答者(1,000名)に、家庭の毎月の生活費(食費、住居費、水道光熱費、日用品費、被服費、美容費、医療費、交通費、通信費、教育費、娯楽費などの合計。貯蓄・資産運用額は除く)を聞いたところ、「5万円～10万円未満」(13.7%)や「10万円～15万円未満」(13.1%)、「15万円～20万円未満」(12.0%)に回答が集まり、平均は14.9万円でした。また、「わからない(把握していない)」は24.9%となりました。(図12)

(図12)

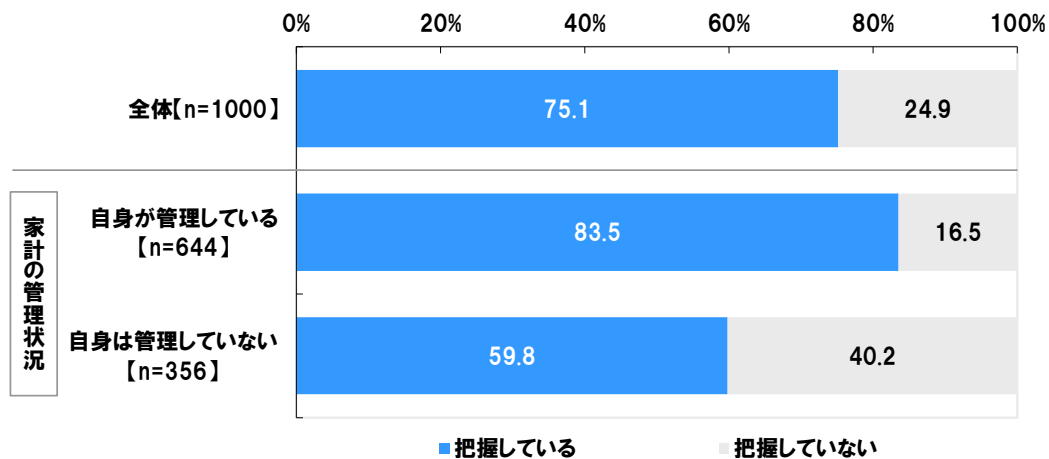
◆家庭の毎月の生活費(食費、住居費、水道光熱費、日用品費、被服費、美容費、医療費、交通費、通信費、教育費、娯楽費などの合計。貯蓄・資産運用額は除く)  
 [単一回答形式]



家計の管理状況別にみると、家庭の毎月の生活費を把握していない人の割合は、家計を自身で管理していない人では40.2%と、家計を自身で管理している人(16.5%)と比べて23.7ポイント高くなりました。(図13)

(図13)

◆家庭の毎月の生活費を把握しているか



## NEWS LETTER (調査レポート)

### ◆誰の収入で生活費を負担している？ 「主に夫」55%、「主に妻」12%、「夫婦平等に負担」30%

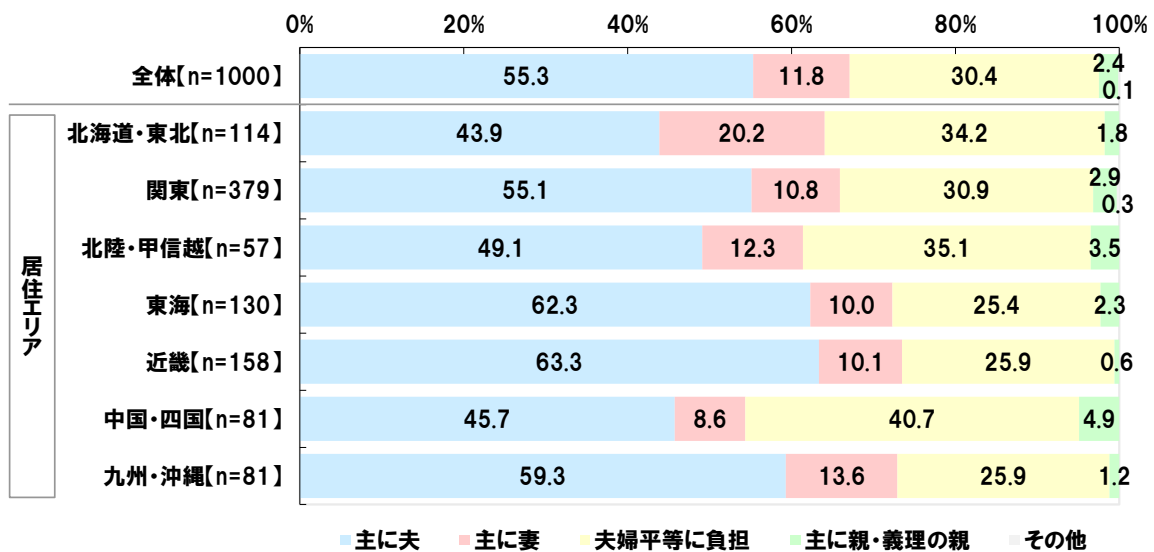
東海と近畿では「主に夫」、中国・四国では「夫婦平等に負担」が高い傾向

自身の家庭では、主に誰の収入で生活費を負担しているか聞いたところ、「主に夫」は55.3%、「主に妻」は11.8%、「夫婦平等に負担」は30.4%、「主に親・義理の親」は2.4%となりました。

居住エリア別にみると、東海と近畿では「主に夫」(順に62.3%、63.3%)、北海道・東北では「主に妻」(20.2%)、中国・四国では「夫婦平等に負担」(40.7%)がそれぞれ他の居住エリアと比べて高くなりました。(図14)

(図14)

#### ◆自身の家庭では、主に誰の収入で生活費を負担しているか [単一回答形式]



# NEWS LETTER (調査レポート)

## ◆毎月の生活費の中で一番大きな出費になっているもの 1位「住居費」2位「食費」3位「日用品費」

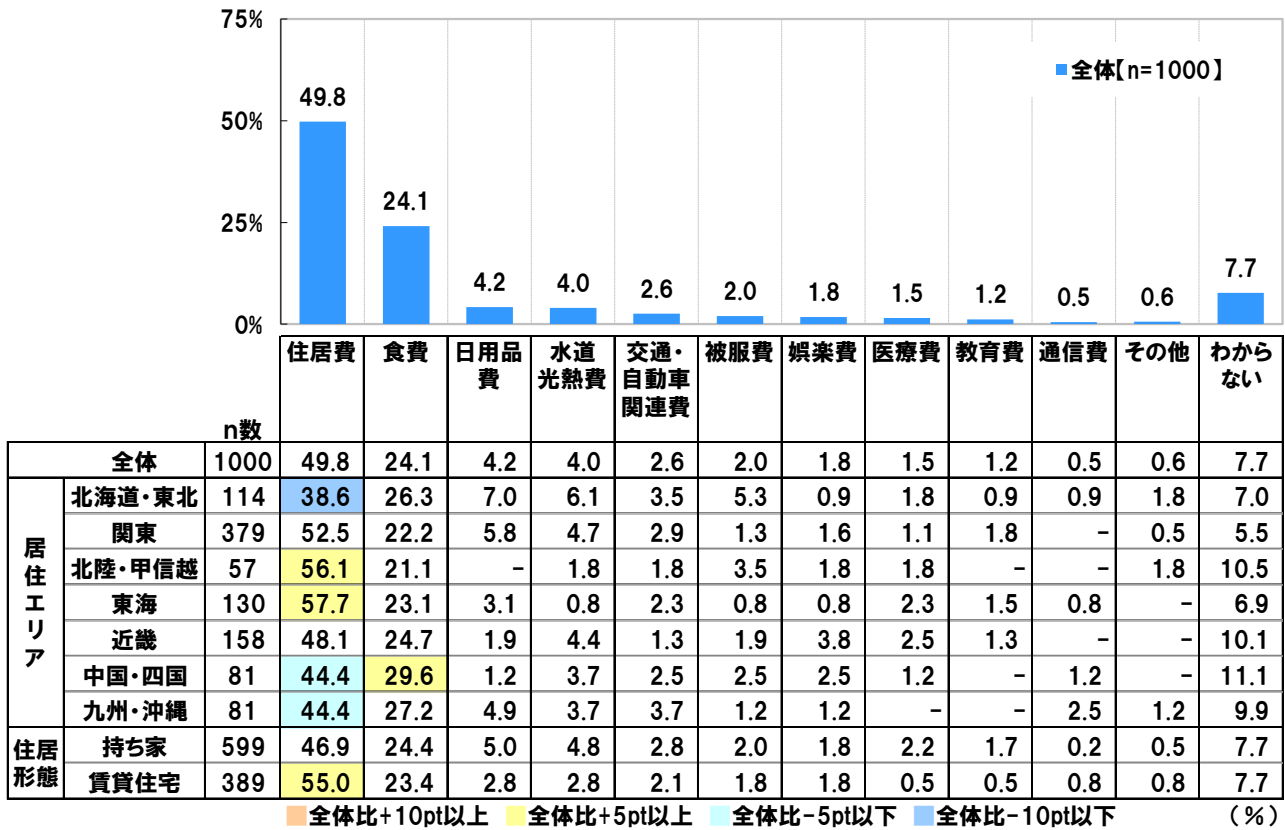
全回答者(1,000名)に、毎月の生活費の中で一番大きな出費になっているものを聞いたところ、「住居費」(49.8%)が突出して高くなりました。住宅ローンの返済や家賃の支払いが家計において大きな比重を占めていると感じる人が多いようです。次いで高くなったのは、「食費」(24.1%)、「日用品費」(4.2%)、「水道光熱費」(4.0%)、「交通・自動車関連費」(2.6%)でした。

居住エリア別にみると、北陸・甲信越と東海では「住居費」(順に 56.1%、57.7%)、中国・四国では「食費」(29.6%)が全体と比べて5ポイント以上高くなりました。

住居形態別にみると、賃貸住宅に住んでいる人では「住居費」が 55.0%と、持ち家に住んでいる人(46.9%)と比べて8.1ポイント高くなりました。(図15)

(図15)

### ◆毎月の生活費の中で一番大きな出費になっているもの [単一回答形式]



**NEWS LETTER (調査レポート)**

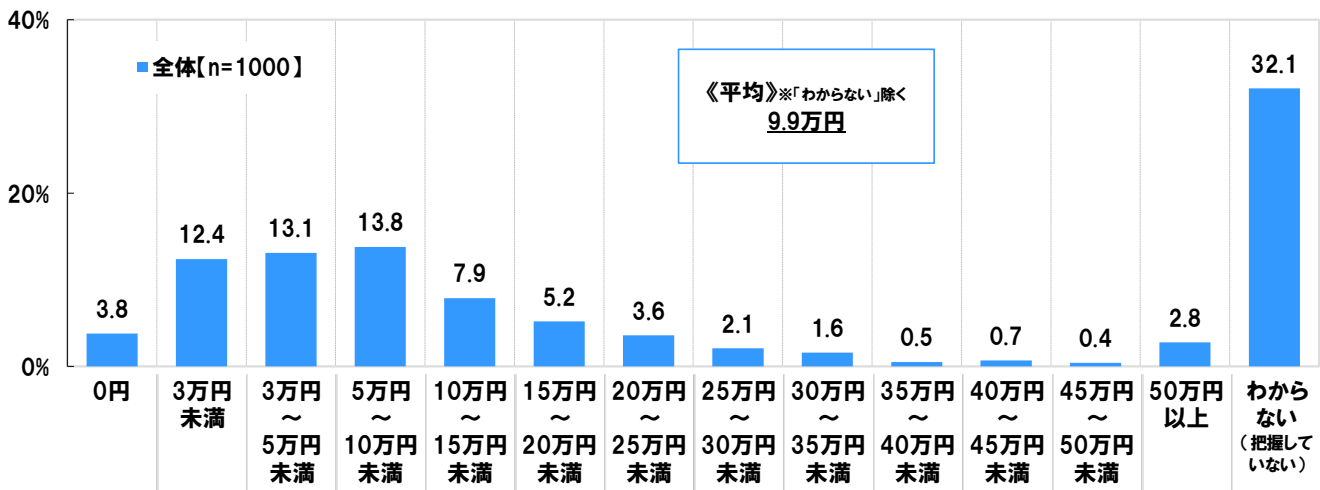
- ◆**家庭の毎月の貯蓄・資産運用額 平均は9.9万円、「把握していない」は32%**
- ◆**実践している貯蓄・資産運用の方法 1位「預金・貯金」48%、2位「投資信託」41%**

続いて、毎月の貯蓄や資産運用について質問しました。

全回答者(1,000名)に、家庭の毎月の貯蓄・資産運用額を聞いたところ、「わからない(把握していない)」が32.1%と特に高くなったほか、「3万円未満」(12.4%)や「3万円～5万円未満」(13.1%)、「5万円～10万円未満」(13.8%)にも回答が集まり、平均は9.9万円でした。(図16)

(図16)

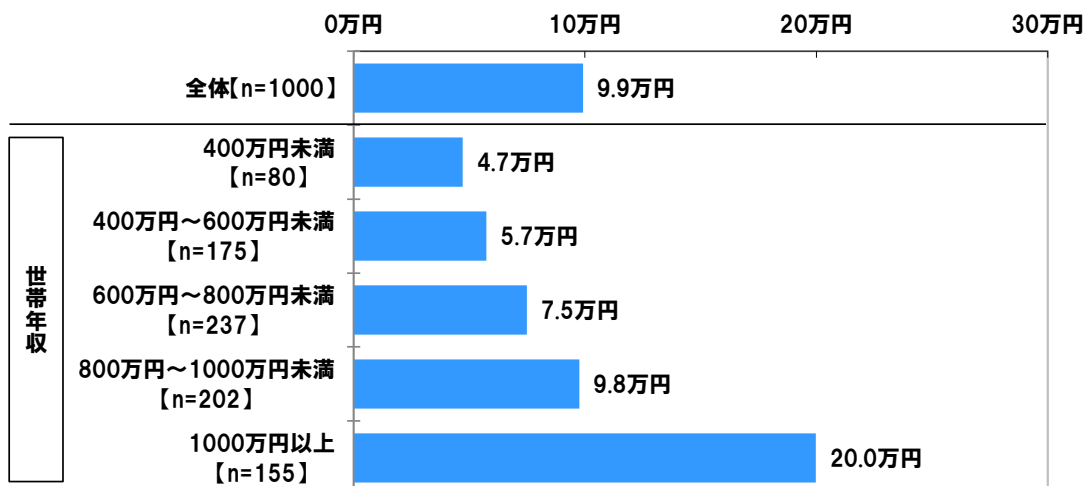
◆家庭の毎月の貯蓄・資産運用額 [単一回答形式]



世帯年収別にみると、家庭の毎月の貯蓄・資産運用額の平均は、世帯年収が上がるほど多くなる傾向がみられ、世帯年収1000万円以上の層では20.0万円でした。(図17)

(図17)

◆家庭の毎月の貯蓄・資産運用額 [単一回答形式] ※平均(「わからない」除く)を表示



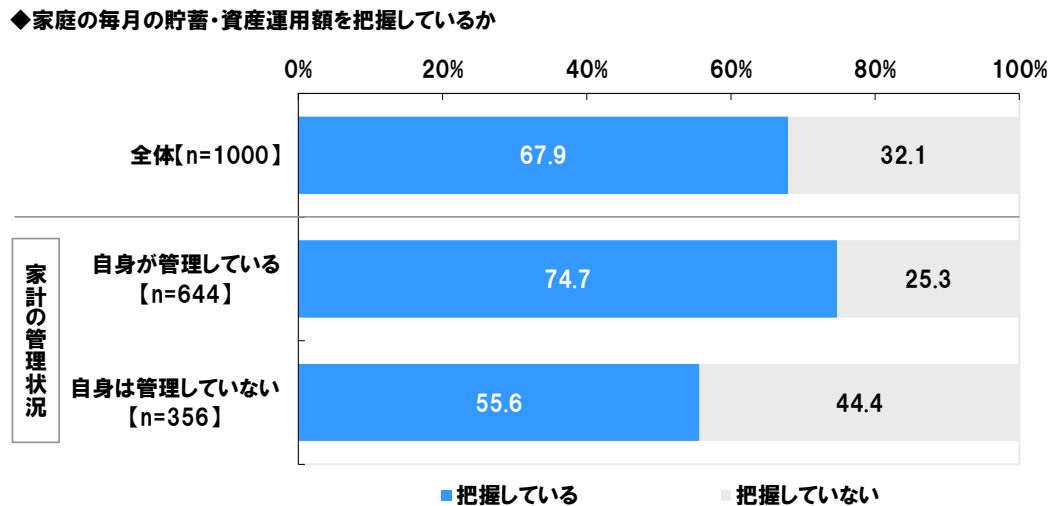
\*世帯年収について「わからない・答えたくない」は非表示



## NEWS LETTER (調査レポート)

家計の管理状況別にみると、家庭の毎月の貯蓄・資産運用額を把握していない人の割合は、家計を自身で管理していない人では44.4%と、家計を自身で管理している人(25.3%)と比べて19.1ポイント高くなりました。(図18)

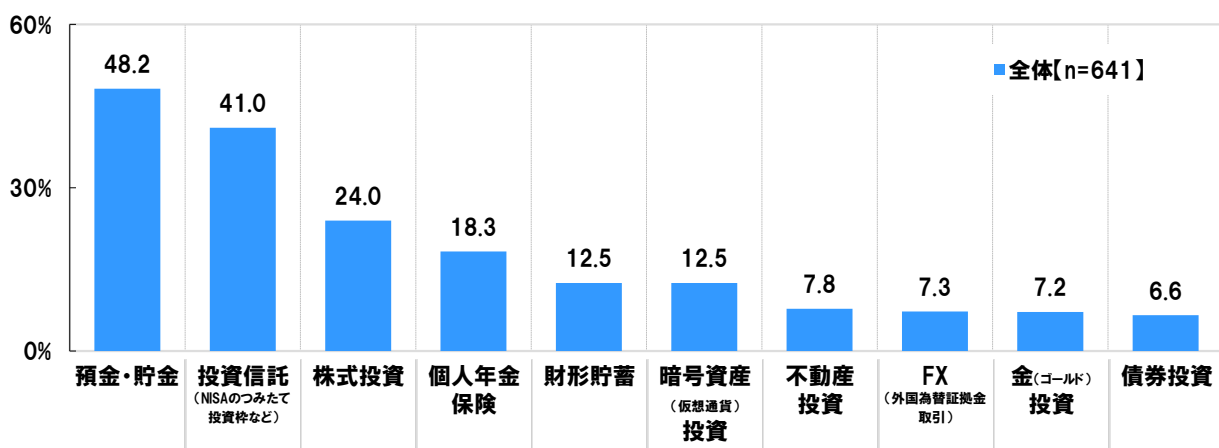
(図18)



貯蓄・資産運用をしている人(641名)に、自身の家庭では、どのような方法で貯蓄・資産運用をしているか聞いたところ、「預金・貯金」(48.2%)が最も高くなり、「投資信託(NISAのつみたて投資枠など)」(41.0%)、「株式投資」(24.0%)、「個人年金保険」(18.3%)、「財形貯蓄」「暗号資産(仮想通貨)投資」(いずれも12.5%)が続きました。(図19)

(図19)

◆自身の家庭では、どのような方法で貯蓄・資産運用をしているか [複数回答形式] ※上位10位までを表示  
 対象: 貯蓄・資産運用をしている人



# NEWS LETTER (調査レポート)

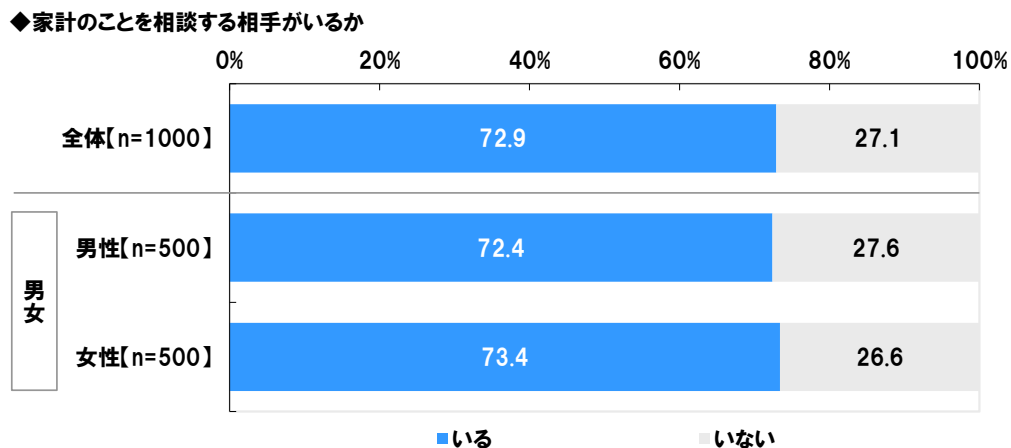
## ◆「家計のことを相談する相手がいる」73%

**相談する相手 1位「配偶者」2位「親・義理の親」3位「友人」4位「お金の専門家」5位「職場の同僚・上司」**

家計のことを相談できる相手がいる人はどのくらいいるのでしょうか。

全回答者(1,000名)に、家計のことを相談する相手がいるか聞いたところ、「いる」は72.9%、「いない」は27.1%となりました。家計について悩みや困ったことがあった際に、誰にも相談できないという人は少なくないようです。(図20)

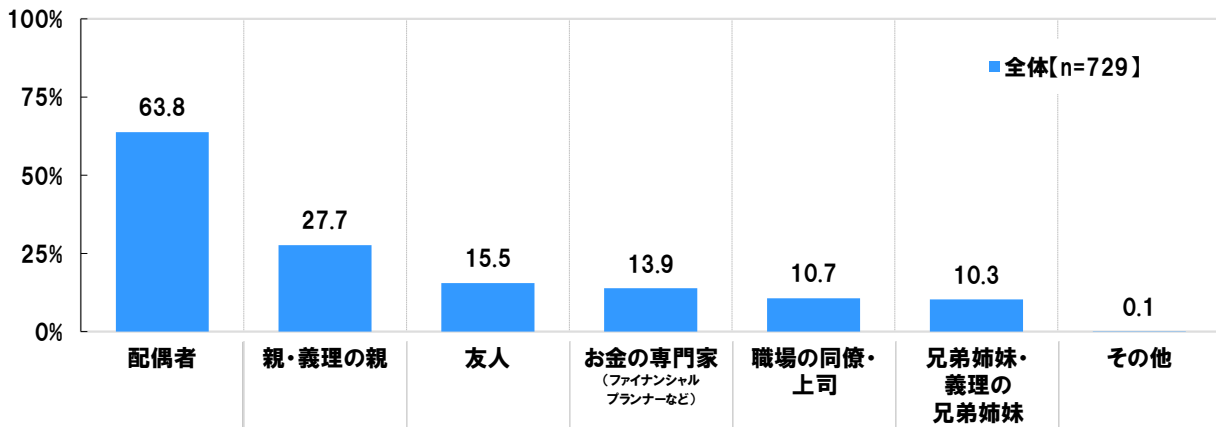
(図20)



家計のことを相談する相手がいる人(729名)に、相談する相手を聞いたところ、「配偶者」(63.8%)が突出して高くなり、「親・義理の親」(27.7%)、「友人」(15.5%)、「お金の専門家(ファイナンシャルプランナーなど)」(13.9%)、「職場の同僚・上司」(10.7%)が続きました。(図21)

(図21)

◆家計のことを相談する相手 [複数回答形式]  
 対象: 家計のことを相談する相手がいる人



# NEWS LETTER (調査レポート)

## 【20代・30代共働き夫婦の家事に関する意識・実態】

### ◆誰が家事を担当している？「主に夫」15%、「主に妻」53%、「夫婦平等に分担」25%

#### 北陸・甲信越では「夫婦平等に分担」が高い傾向

家事について質問しました。

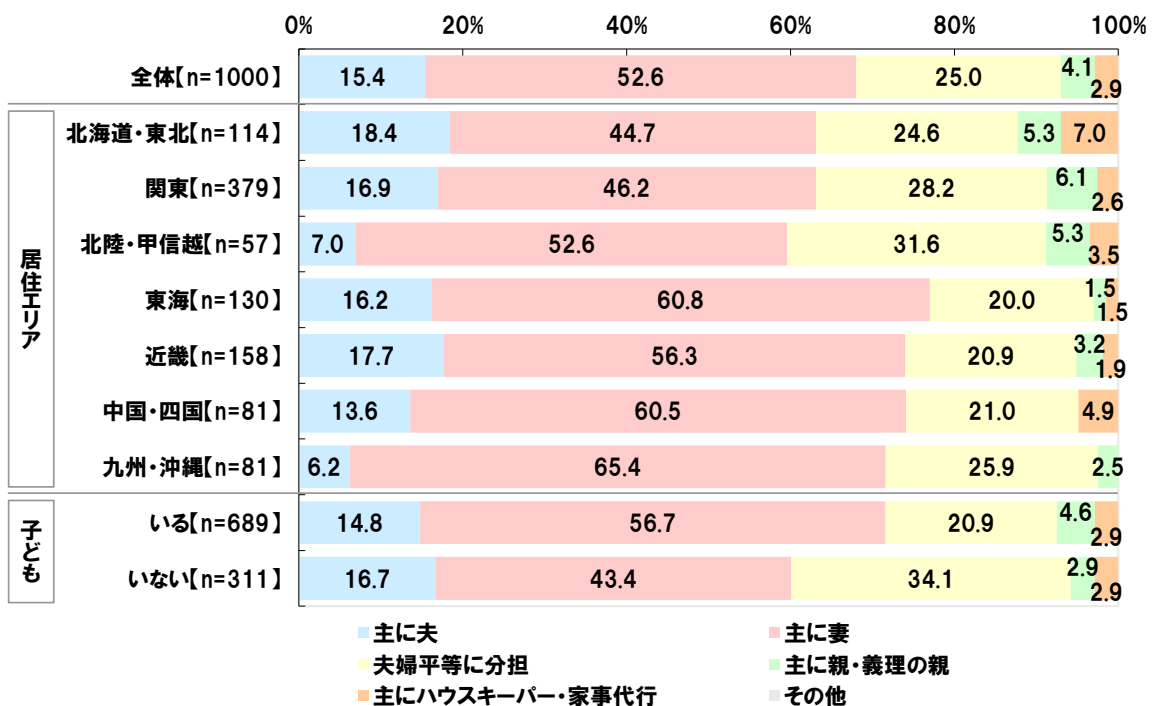
全回答者(1,000名)に、自身の家庭では、主に誰が家事を担当しているか聞いたところ、「主に夫」は15.4%、「主に妻」は52.6%、「夫婦平等に分担」は25.0%、「主に親・義理の親」は4.1%、「主にハウスキーパー・家事代行」は2.9%となりました。家計管理と同様、主に妻が担当している家庭が多いようです。

居住エリア別に見ると、東海と中国・四国、九州・沖縄では「主に妻」(順に60.8%、60.5%、65.4%)、北陸・甲信越では「夫婦平等に分担」(31.6%)がそれぞれ他の居住エリアと比べて高くなりました。

子どもの有無で見ると、子どもがいる人では「主に妻」が56.7%と、子どもがいない人(43.4%)と比べて10ポイント以上高く、子どもがいない人では「夫婦平等に分担」が34.1%と、子どもがいる人(20.9%)と比べて10ポイント以上高くなりました。(図22)

(図 22)

#### ◆自身の家庭では、主に誰が家事を担当しているか [単一回答形式]



# NEWS LETTER (調査レポート)

## ◆家事の分担に関する意識 「もっと自分が担当しなければならないと思う」妻の37%、夫では63% 「もっと配偶者に分担してもらいたい」夫の38%、妻では52%

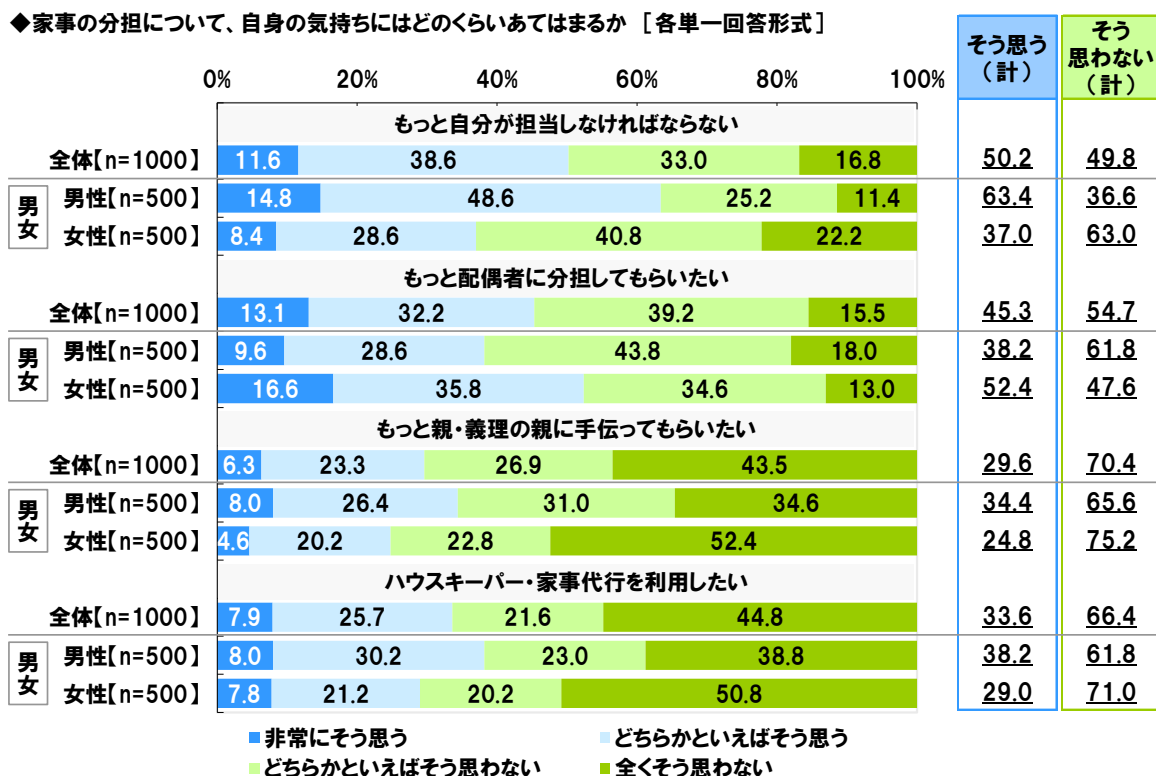
次に、家事の分担について、自身の気持ちにどのくらいあてはまるか聞きました。

《もっと自分が担当しなければならない》では「非常にそう思う」が11.6%、「どちらかといえばそう思う」が38.6%で合計した『そう思う(計)』は50.2%、「全くそう思わない」が16.8%、「どちらかといえばそう思わない」が33.0%で合計した『そう思わない(計)』は49.8%と、両者が拮抗する結果となりました。

《もっと配偶者に分担してもらいたい》では『そう思う(計)』は45.3%、《もっと親・義理の親に手伝ってもらいたい》では29.6%、《ハウスキーパー・家事代行を利用したい》では33.6%と、いずれも半数未満でした。

男女別にみると、男性では《もっと自分が担当しなければならない》で『そう思う(計)』と回答した人の割合が63.4%と半数を上回った一方、女性では37.0%にとどまりました。また、女性では《もっと配偶者に分担してもらいたい》で『そう思う(計)』と回答した人の割合が52.4%と半数を上回った一方、男性では38.2%にとどまりました。もっと率先して家事に取り組まなければいけないと考えている夫が多い一方、妻の約半数はもっと夫に家事を行ってほしいと考えている実状が明らかとなりました。(図23)

(図23)



## NEWS LETTER (調査レポート)

### ◆家事の負担を軽減するために行っていること

#### 1位「まとめ買い」2位「冷凍食品の利用」3位「外食・テイクアウトの利用」

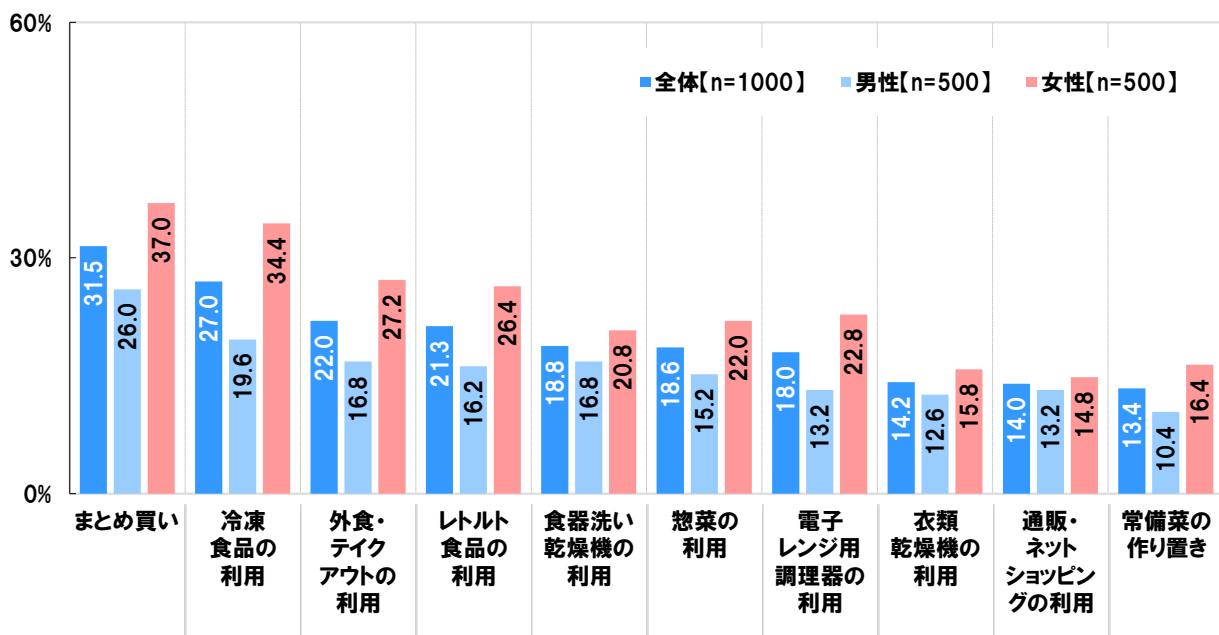
家事の負担を軽減するために、どのようなことを実践している人が多いのでしょうか。

全回答者(1,000名)に、自身の家庭で、家事の負担を軽減するために行っていることを聞いたところ、「まとめ買い」(31.5%)が最も高くなり、「冷凍食品の利用」(27.0%)、「外食・テイクアウトの利用」(22.0%)、「レトルト食品の利用」(21.3%)、「食器洗い乾燥機の利用」(18.8%)が続きました。時間を捻出するための“手間抜き”が賢く活用されているようです。

男女別にみると、女性では「まとめ買い」が37.0%、「冷凍食品の利用」が34.4%、「外食・テイクアウトの利用」が27.2%、「レトルト食品の利用」が26.4%と、男性(順に26.0%、19.6%、16.8%、16.2%)と比べて10ポイント以上高くなりました。(図24)

(図24)

◆自身の家庭で、家事の負担を軽減するために行っていること [複数回答形式] ※上位10位までを表示



# NEWS LETTER (調査レポート)

## 【20代・30代共働き夫婦の育児に関する意識・実態】

◆理想的だと考える子どもの人数「2人」が52%で最多回答、20代男性では「1人」が高い傾向

◆誰が育児・子育てを担当している？「主に夫」8%、「主に妻」52%、「夫婦平等に分担」34%

北陸・甲信越では「夫婦平等に分担」が高い傾向

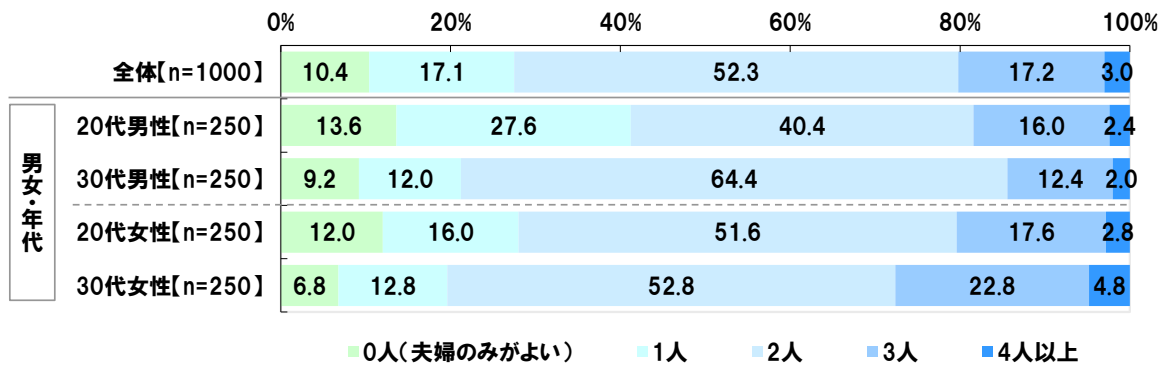
育児について質問しました。

まず、全回答者(1,000名)に、理想的だと考える子どもの人数を聞いたところ、「0人(夫婦のみがよい)」は10.4%、「1人」は17.1%、「2人」は52.3%、「3人」は17.2%、「4人以上」は3.0%と、「2人」が最多回答となりました。

男女・年代別にみると、20代男性では「1人」(27.6%)が他の層と比べて高くなりました。(図25)

(図25)

◆理想的だと考える子どもの人数 [単一回答形式]



子どもがいる人(689名)に、自身の家庭では、主に誰が育児・子育てを担当しているか聞いたところ、「主に夫」は7.5%、「主に妻」は51.8%、「夫婦平等に分担」は33.7%、「主に親・義理の親」は4.9%、「主にベビーシッター・家事代行」は2.0%と、半数以上の家庭で主に妻が育児・子育てを担っていることがわかりました。

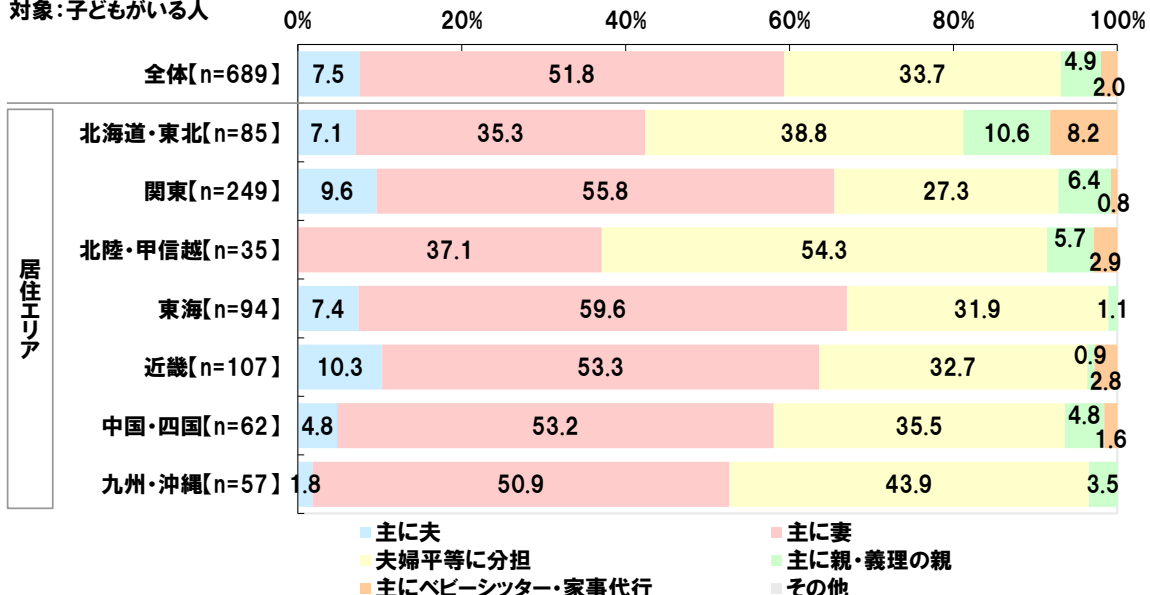
居住エリア別にみると、北陸・甲信越では「夫婦平等に分担」(54.3%)が他の居住エリアと比べて高くなりました。

(図26)

(図26)

◆自身の家庭では、主に誰が育児・子育てを担当しているか [単一回答形式]

対象:子どもがいる人



# NEWS LETTER (調査レポート)

## ◆育児・子育ての分担に関する意識 「もっと自分が担当しなければならないと思う」ママの33%、パパでは65%

「もっと配偶者に分担してもらいたい」パパの36%、ママでは58%

## ◆男性は家事・育児に関する有償サービスの利用意向が高い？

「ベビーシッター・家事代行を利用したい」ママの26%、パパでは40%

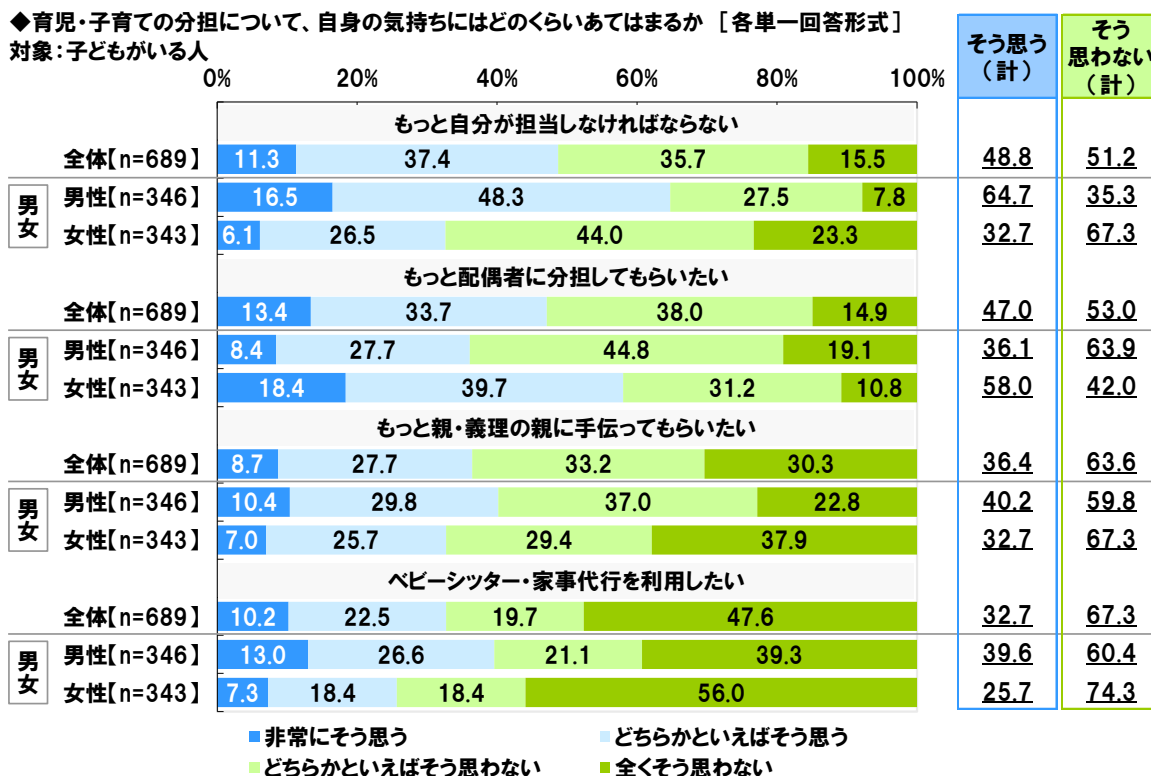
次に、育児・子育ての分担について、自身の気持ちにどのくらいあてはまるか聞きました。

《もっと自分が担当しなければならない》では「非常にそう思う」が11.3%、「どちらかといえばそう思う」が37.4%で合計した『そう思う(計)』は48.8%、「全くそう思わない」が15.5%、「どちらかといえばそう思わない」が35.7%で合計した『そう思わない(計)』は51.2%となりました。

《もっと配偶者に分担してもらいたい》では『そう思う(計)』は47.0%、《もっと親・義理の親に手伝ってもらいたい》では36.4%、《ベビーシッター・家事代行を利用したい》では32.7%と、いずれも半数未満でした。

男女別にみると、家事の分担に関する意識と同様、《もっと自分が担当しなければならない》で『そう思う(計)』と回答した人の割合が男性(64.7%)では半数を超えた一方、女性では32.7%にとどまり、《もっと配偶者に分担してもらいたい》で『そう思う(計)』と回答した人の割合が女性(58.0%)では半数を超えた一方、男性では36.1%にとどまりました。また、《ベビーシッター・家事代行を利用したい》で『そう思う(計)』と回答した人の割合は男性では39.6%と、女性(25.7%)と比べて10ポイント以上高くなりました。男性では家事・育児に関する有償サービスの利用意向が高いことが明らかになりました。(図27)

(図 27)



## NEWS LETTER (調査レポート)

### ◆育児・子育てで大変だと感じていること

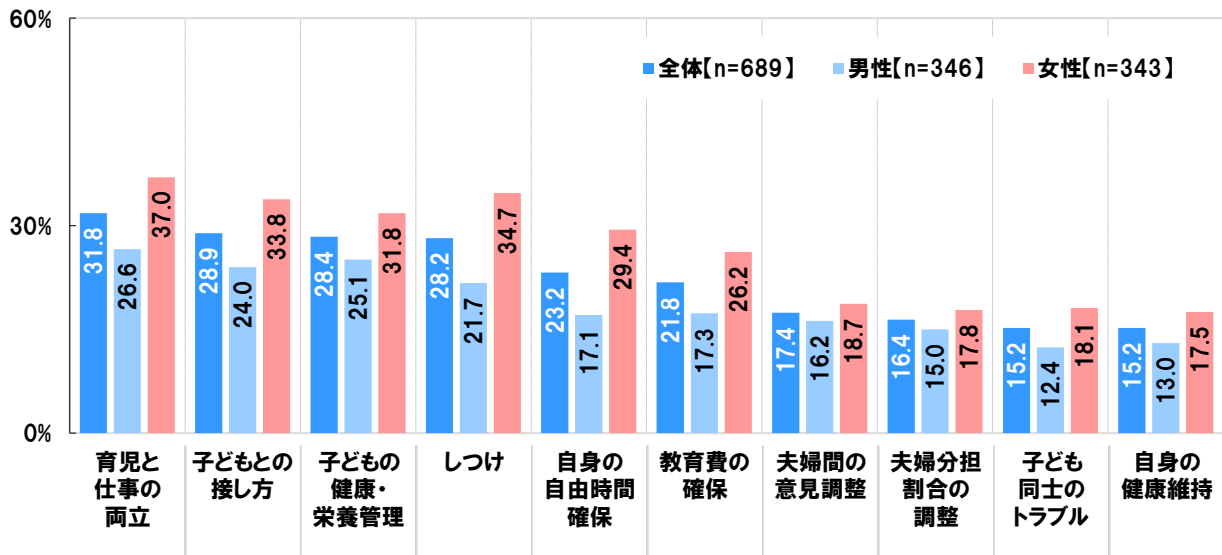
#### 1位「育児と仕事の両立」2位「子どもとの接し方」3位「子どもの健康・栄養管理」

続いて、育児・子育てで大変だと感じていることを聞いたところ、「育児と仕事の両立」(31.8%)が最も高くなりました。限られた時間のなかで、育児と仕事を両方こなすことの難しさを実感している人が多いようです。次いで高くなったのは、「子どもとの接し方」(28.9%)、「子どもの健康・栄養管理」(28.4%)、「しつけ」(28.2%)、「自身の自由時間確保」(23.2%)でした。

男女別にみると、いずれの項目でも女性のほうが男性と比べて割合が高くなっており、育児・子育てに大変さを感じている人が多いことをうかがえる結果となりました。なかでも、女性では「育児と仕事の両立」が37.0%、「自身の自由時間確保」が29.4%と、男性(順に26.6%、17.1%)と比べて10ポイント以上高くなりました。(図28)

(図28)

◆育児・子育てで大変だと感じていること [複数回答形式] ※上位10位までを表示  
 対象:子どもがいる人





## NEWS LETTER (調査レポート)

### ◆子どものどのような言動・様子に癒されたことがある？

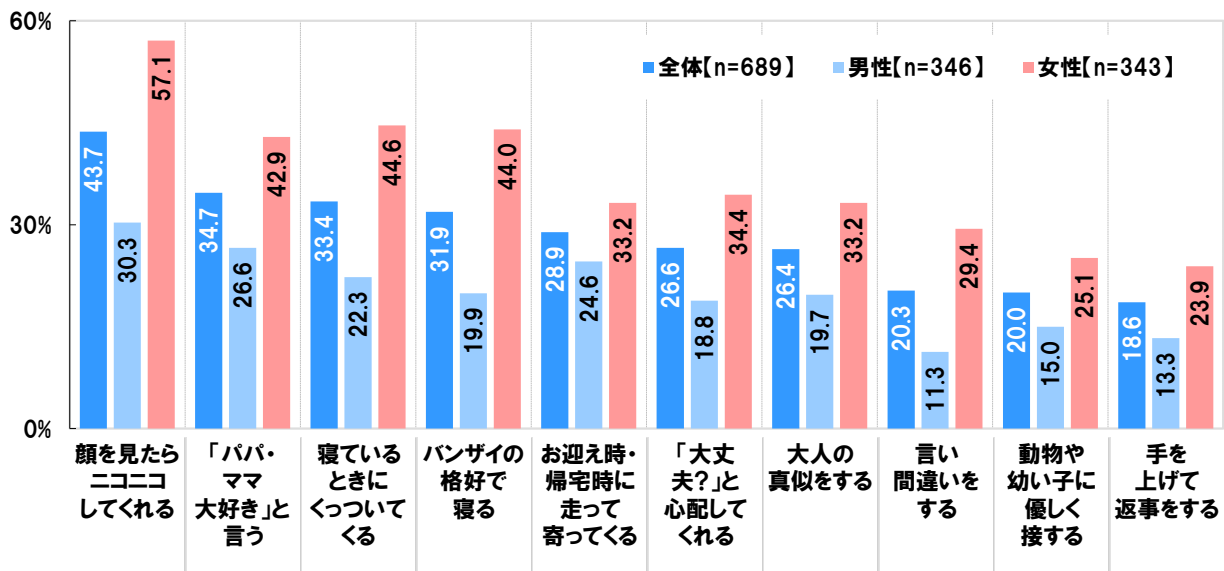
#### 1位「顔を見たらニコニコしてくれる」2位『「パパ・ママ大好き」と言う』3位「寝ているときにくっついてくる」

これまでに、子どものどのような言動・様子に癒やされたか聞いたところ、「顔を見たらニコニコしてくれる」(43.7%)が最も高くなりました。子どもの笑顔を見て仕事の疲れが吹き飛んだパパ・ママが多いのではないのでしょうか。次いで高くなったのは、『「パパ・ママ大好き」と言う』(34.7%)、「寝ているときにくっついてくる」(33.4%)、「バンザイの格好で寝る」(31.9%)、「お迎え時・帰宅時に走って寄ってくる」(28.9%)でした。

男女別にみると、育児・子育てで大変だと感じていることと同様に、いずれの項目でも女性のほうが男性と比べて割合が高くなる傾向がみられました。なかでも、女性では「顔を見たらニコニコしてくれる」が57.1%、「寝ているときにくっついてくる」が44.6%、「バンザイの格好で寝る」が44.0%と、男性(順に30.3%、22.3%、19.9%)と比べて20ポイント以上高くなりました。(図29)

(図29)

◆これまでに、子どものどのような言動・様子に癒やされたか【複数回答形式】 ※上位10位までを表示  
 対象:子どもがいる人



# NEWS LETTER (調査レポート)

## 【20代・30代共働き夫婦の夫婦関係】

◆夫婦関係に関する意識 「夫婦関係は良好」59%、「今後、夫婦関係を今より良くしたい」42%

◆今の配偶者と結婚した率直な感想は？ 55%が「満足」と回答

夫婦関係について質問しました。

まず、全回答者(1,000名)に、夫婦関係の状況や配偶者に対する満足度について聞きました。

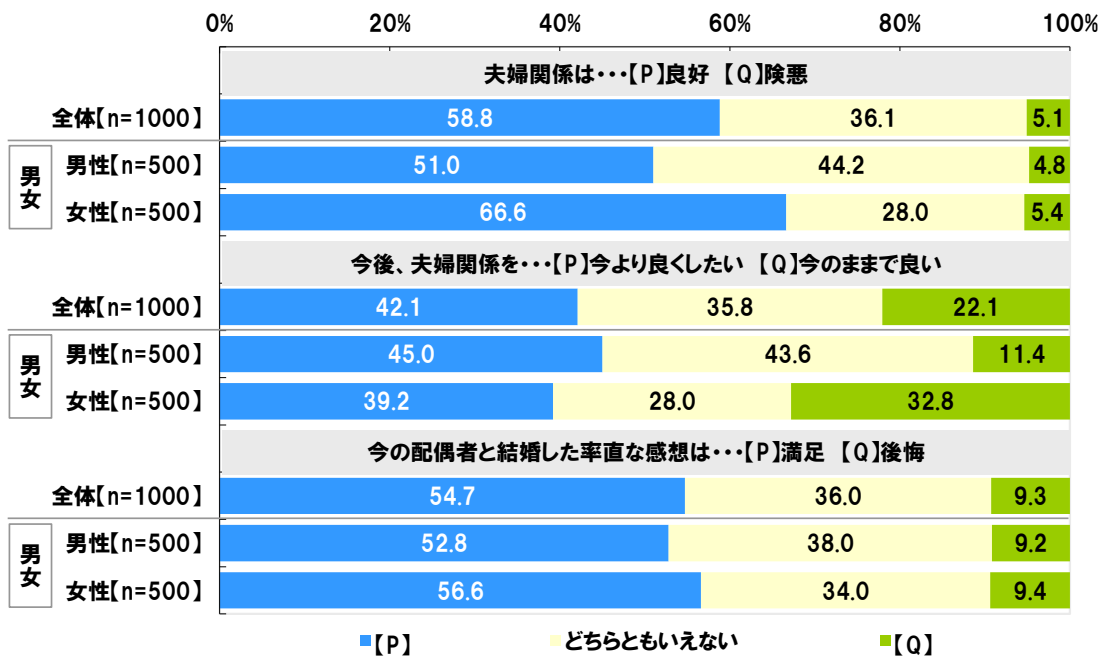
《夫婦関係》は、「良好」が58.8%、「どちらともいえない」が36.1%、「陰悪」が5.1%となりました。男女別にみると、「良好」と回答した人の割合は、男性51.0%、女性66.6%と、女性のほうが15.6ポイント高くなりました。

《今後の夫婦関係》は、「今より良くしたい」が42.1%、「どちらともいえない」が35.8%、「今のままで良い」が22.1%でした。男女別にみると、「今より良くしたい」と回答した人の割合は、男性45.0%、女性39.2%と、男性のほうが5.8ポイント高くなりました。

《今の配偶者と結婚した率直な感想》は、「満足」が54.7%、「どちらともいえない」が36.0%、「後悔」が9.3%と、半数以上の人現在の配偶者との結婚に満足していることがわかりました。(図30)

(図30)

◆自身の気持ち・考えは、【P】と【Q】のどちらにあてはまるか [各単一回答形式]

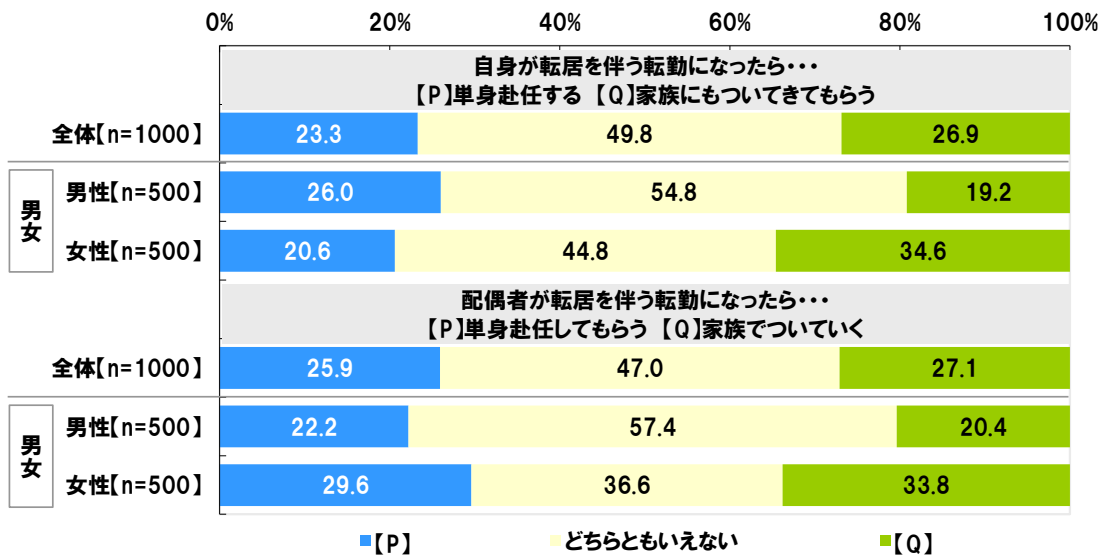


**NEWS LETTER (調査レポート)**
**◆配偶者が転居を伴う転勤になったら？「単身赴任してもらう」夫の22%、妻では30%**  
**子どもがいる人では「単身赴任」の意向が高くなる傾向**

転勤時の生活スタイルについて聞くと、「自身が転居を伴う転勤になったらどうするか」は、「単身赴任する」が23.3%、「どちらともいえない」が49.8%、「家族にもついてきてもらう」が26.9%となりました。男女別にみると、「家族にもついてきてもらう」と回答した人の割合は、男性19.2%、女性34.6%と、女性のほうが15.4ポイント高くなりました。

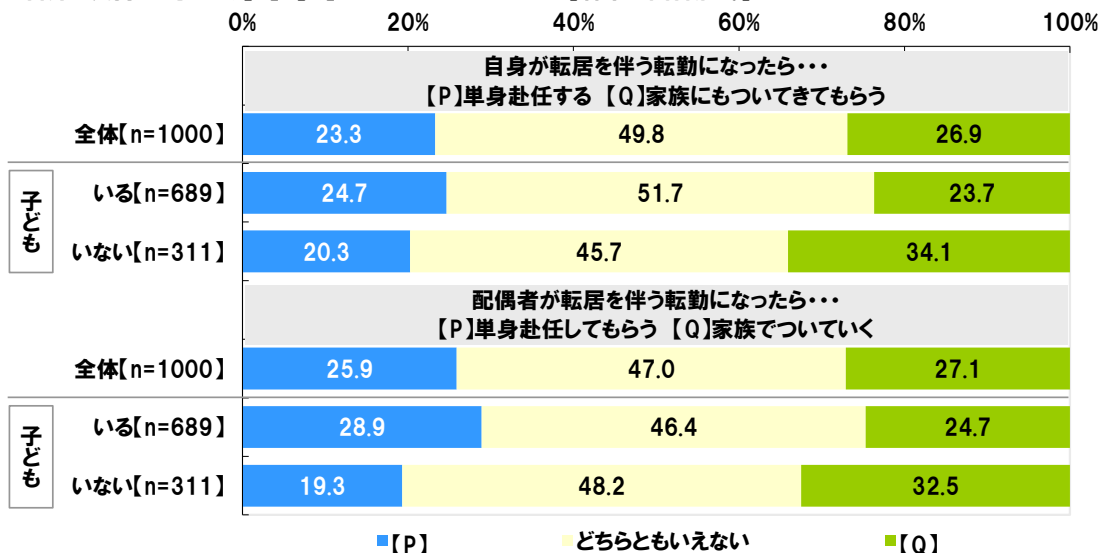
「配偶者が転居を伴う転勤になったらどうするか」は、「単身赴任してもらう」が25.9%、「どちらともいえない」が47.0%、「家族でついていく」が27.1%でした。男女別にみると、「単身赴任してもらう」(男性22.2%、女性29.6%)と「家族でついていく」(男性20.4%、女性33.8%)のいずれも女性のほうが高くなりました。(図31)

(図 31)

**◆自身の気持ち・考えは、【P】と【Q】のどちらにあてはまるか [各単一回答形式]**


子どもの有無でみると、子どもがいる人では「自身が転居を伴う転勤になったらどうするか」で「単身赴任する」と回答した人の割合が24.7%、「配偶者が転居を伴う転勤になったらどうするか」で「単身赴任してもらう」と回答した人の割合が28.9%と、子どもがいない人(順に20.3%、19.3%)と比べて高くなりました。(図32)

(図 32)

**◆自身の気持ち・考えは、【P】と【Q】のどちらにあてはまるか [各単一回答形式]**


# NEWS LETTER (調査レポート)

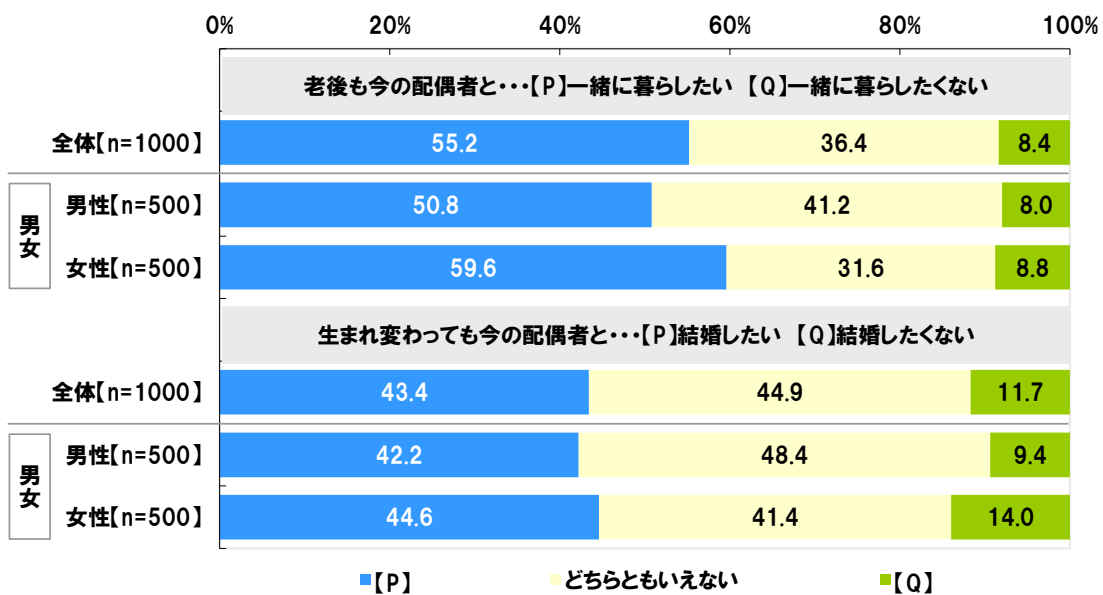
## ◆「老後も今の配偶者と一緒に暮らしたい」夫の 51%、妻では 60%

老後の生活や配偶者への思いについて聞くと、「老後も今の配偶者と一緒に暮らしたいか」は、「一緒に暮らしたい」が 55.2%と半数を超えました。男女別にみると、「一緒に暮らしたい」と回答した人の割合は、男性 50.8%、女性 59.6%と、女性のほうが 8.8 ポイント高くなりました。

「生まれ変わっても今の配偶者と結婚したいか」は、「結婚したい」が 43.4%、「どちらともいえない」が 44.9%、「結婚したくない」が 11.7%でした。男女別にみると、「結婚したくない」と回答した人の割合は、男性 9.4%、女性 14.0%と、女性のほうが 4.6 ポイント高くなりました。(図 33)

(図 33)

### ◆自身の気持ち・考えは、【P】と【Q】のどちらにあてはまるか [各単一回答形式]



## NEWS LETTER (調査レポート)

◆妻に対して抱くギャップ 結婚前の期待を上回っていると感じること 1位「家事力」、  
 結婚前の期待を下回っていると感じること 1位「お金の使い方」

◆夫に対して抱くギャップ 結婚前の期待を上回っていると感じること 1位「やさしさ・包容力」、  
 結婚前の期待を下回っていると感じること 1位「容姿・体型」

配偶者に対して感じるギャップについて質問しました。

全回答者(1,000名)に、配偶者に対して、結婚前の期待を“上回っている”と感じることを聞いたところ、男性回答では「家事力」(22.8%)が1位となり、2位「やさしさ・包容力」(22.0%)、3位「愛情」「家族にかかる時間」(いずれも18.2%)、5位「自分の家族・親戚との仲」(18.0%)と続きました。女性回答では「やさしさ・包容力」(33.6%)が1位となり、2位「愛情」(25.2%)、3位「家事力」(24.0%)、4位「家族にかかる時間」(23.0%)、5位「自分の家族・親戚との仲」(21.2%)と続きました。(図34)

(図34)

◆配偶者に対して、結婚前の期待を“上回っている”と感じること [複数回答形式]  
 ※上位10位までを表示

男性[n=500]			女性[n=500]		
順位	項目	%	順位	項目	%
1位	家事力	22.8	1位	やさしさ・包容力	33.6
2位	やさしさ・包容力	22.0	2位	愛情	25.2
3位	愛情	18.2	3位	家事力	24.0
	家族にかかる時間	18.2	4位	家族にかかる時間	23.0
5位	自分の家族・親戚との仲	18.0	5位	自分の家族・親戚との仲	21.2
6位	お金の使い方	15.0	6位	育児力	21.0
7位	育児力	14.8	7位	経済力	18.6
8位	誠実さ	13.8	8位	お金の使い方	17.2
9位	清潔感	11.8	9位	誠実さ	16.6
10位	容姿・体型	11.2	10位	清潔感	10.8

他方、配偶者に対して、結婚前の期待を“下回っている”と感じることを聞いたところ、男性回答では1位「お金の使い方」(10.4%)、2位「家事力」(10.0%)、3位「やさしさ・包容力」(9.4%)、4位「経済力」(8.4%)、5位「容姿・体型」(8.0%)となりました。女性回答では1位「容姿・体型」(18.4%)、2位「家事力」(15.8%)、3位「お金の使い方」(14.8%)、4位「経済力」(12.8%)、5位「健康状態」(11.8%)となりました。(図35)

(図35)

◆配偶者に対して、結婚前の期待を“下回っている”と感じること [複数回答形式]  
 ※上位10位までを表示

男性[n=500]			女性[n=500]		
順位	項目	%	順位	項目	%
1位	お金の使い方	10.4	1位	容姿・体型	18.4
2位	家事力	10.0	2位	家事力	15.8
3位	やさしさ・包容力	9.4	3位	お金の使い方	14.8
4位	経済力	8.4	4位	経済力	12.8
5位	容姿・体型	8.0	5位	健康状態	11.8
6位	家族にかかる時間	7.2	6位	家族にかかる時間	11.4
	誠実さ	7.2	7位	やさしさ・包容力	11.0
8位	健康状態	7.0	8位	愛情	9.6
	愛情	7.0	9位	清潔感	9.2
10位	自分の家族・親戚との仲	5.8	10位	誠実さ	8.8

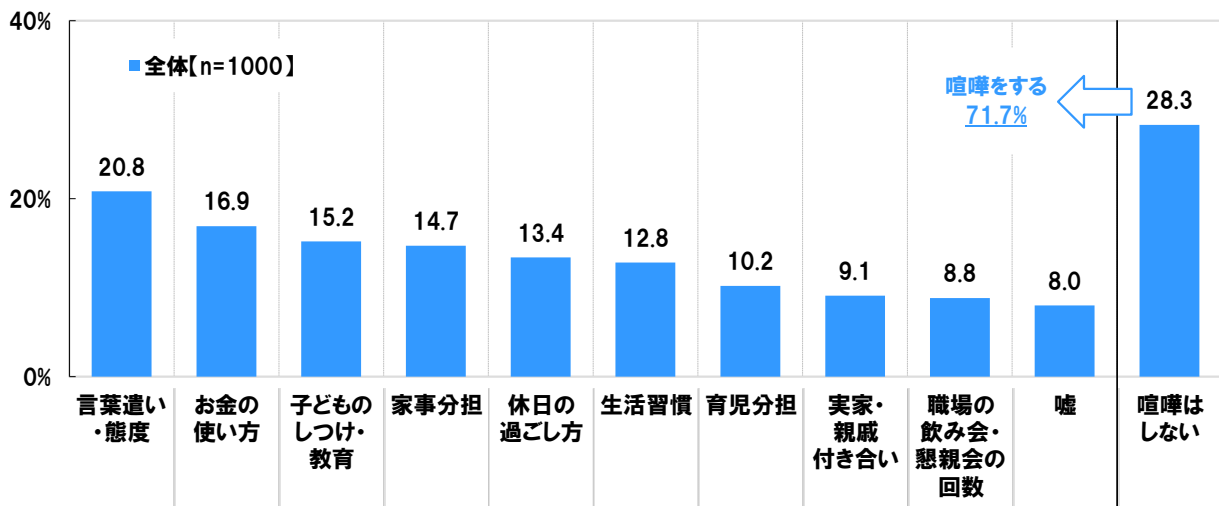
# NEWS LETTER (調査レポート)

## ◆夫婦喧嘩の原因 TOP5 「言葉遣い・態度」「お金の使い方」「子どものしつけ・教育」「家事分担」「休日の過ごし方」 子どもがいる人では「子どものしつけ・教育」が1位に

全回答者(1,000名)に、自分たち夫婦はどのようなことが原因で喧嘩をするか聞いたところ、「言葉遣い・態度」(20.8%)が最も高くなりました。パートナーの言動に思わずカッととなり、喧嘩に発展することがあるのではないのでしょうか。次いで高くなったのは、「お金の使い方」(16.9%)、「子どものしつけ・教育」(15.2%)、「家事分担」(14.7%)、「休日の過ごし方」(13.4%)でした。また、「喧嘩はしない」は28.3%で、喧嘩をする人の割合は71.7%となりました。(図36)

(図36)

◆自分たち夫婦はどのようなことが原因で喧嘩をするか [複数回答形式] ※上位10位までを表示

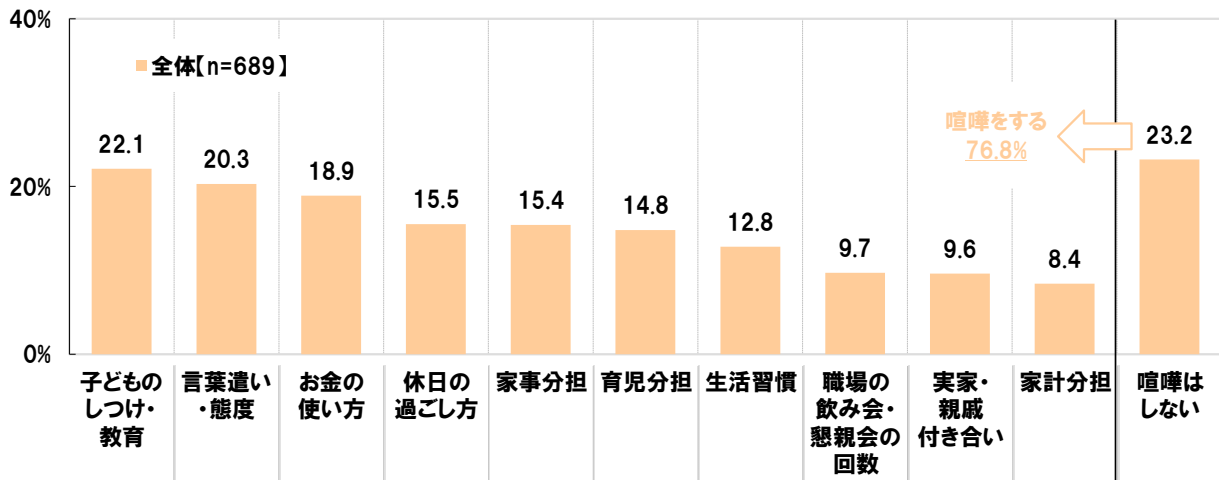


子どもがいる人(689名)についてみると、「子どものしつけ・教育」(22.1%)が最も高くなりました。子どもの教育方針に対する考え方の違いから、言い争いになってしまうケースは多いようです。次いで高くなったのは、「言葉遣い・態度」(20.3%)、「お金の使い方」(18.9%)、「休日の過ごし方」(15.5%)、「家事分担」(15.4%)でした。(図37)

(図37)

◆自分たち夫婦はどのようなことが原因で喧嘩をするか [複数回答形式] ※上位10位までを表示

\*子どもがいる人ベース



## NEWS LETTER (調査レポート)

### ◆共働き夫婦の夫婦円満の秘訣は？

#### 1位「会話する・コミュニケーションをとる」2位「お互いを思いやる」3位「家事・育児を分担する」

全回答者(1,000名)に、共働き夫婦の夫婦円満の秘訣だと思われることを聞いたところ、1位は「会話する・コミュニケーションをとる」となりました。コミュニケーションを積み重ねることで、夫婦関係を良好に保つことができると思う人が多いのではないのでしょうか。以降、2位「お互いを思いやる」、3位「家事・育児を分担する」、4位「感謝する・感謝を伝える」、5位「協力する・助け合う」と続きました。

男女別にみると、女性回答では「お互いを思いやる」が1位となりました。夫婦仲良く過ごすためには、パートナーに對し思いやりの気持ちを持って接することが大切だと考える人が多いようです。(図38)

(図38)

#### ◆共働き夫婦の夫婦円満の秘訣だと思ふこと [自由回答形式] ※上位10位までを表示

全体[n=1000]			男性[n=500]			女性[n=500]		
順位	内容	名	順位	内容	名	順位	内容	名
1位	会話する・コミュニケーションをとる	76	1位	会話する・コミュニケーションをとる	35	1位	お互いを思いやる	51
2位	お互いを思いやる	68	2位	感謝する・感謝を伝える	19	2位	会話する・コミュニケーションをとる	41
3位	家事・育児を分担する	55	3位	お互いを思いやる	17	3位	家事・育児を分担する	39
4位	感謝する・感謝を伝える	47	4位	家事・育児を分担する	16	4位	感謝する・感謝を伝える	28
5位	協力する・助け合う	27	5位	我慢する・妥協する	12	5位	話し合う	18
6位	話し合う	24	6位	協力する・助け合う	10	6位	協力する・助け合う	17
7位	我慢する・妥協する	18	7位	干渉しない	9	7位	尊重し合う	10
	干渉しない	18	8位	理解し合う	6	8位	干渉しない	9
9位	尊重し合う	14		話し合う	6	9位	言いたいことを言う・不満を溜めない	7
10位	言いたいことを言う・不満を溜めない	10	10位	お互いを尊敬する	5	10位	我慢する・妥協する	6
	理解し合う	10		何でも話す・隠し事をしない	5			

## NEWS LETTER (調査レポート)

### 【“理想の夫・妻”だと思う芸能人】

◆“理想の夫”だと思う芸能人 1位「杉浦太陽さん」2位「DAIGOさん」3位「ヒロミさん」

◆“理想の妻”だと思う芸能人 1位「辻希美さん」2位「藤本美貴さん」3位「北川景子さん」

最後に、全回答者(1,000名)に、“理想の夫・妻”のイメージに合う芸能人を聞きました。

“理想の夫”だと思う芸能人では、1位「杉浦太陽さん」、2位「DAIGOさん」、3位「ヒロミさん」、4位「庄司智春さん」、5位「木村拓哉さん」「反町隆史さん」となりました。

男女別にみると、男性回答の1位は「木村拓哉さん」、女性回答の1位は「杉浦太陽さん」でした。(図39)

(図39)

#### ◆“理想の夫”だと思う芸能人 [自由回答形式] ※上位10位まで、男女別は上位5位までを表示

全体[n=1000]			男性[n=500]		
順位	名前	名	順位	名前	名
1位	杉浦太陽	55	1位	木村拓哉	14
2位	DAIGO	32	2位	ヒロミ	13
3位	ヒロミ	24	3位	杉浦太陽	10
4位	庄司智春	22	4位	反町隆史	9
5位	木村拓哉	19		DAIGO	9
	反町隆史	19			
7位	つるの剛士	11			
8位	中尾明慶	8			
9位	賀来賢人	6			
	田中圭	6			

女性[n=500]		
順位	名前	名
1位	杉浦太陽	45
2位	DAIGO	23
3位	庄司智春	14
4位	ヒロミ	11
5位	反町隆史	10

“理想の妻”だと思う芸能人では、1位「辻希美さん」、2位「藤本美貴さん」、3位「北川景子さん」、4位「松嶋菜々子さん」、5位「佐々木希さん」となりました。

男女別にみると、男性回答の1位は「藤本美貴さん」、女性回答の1位は「辻希美さん」でした。(図40)

2024年11月に愛娘の希空さんがYouTubeで完全顔出したことでも注目を集めている、杉浦太陽さん・辻希美さんが夫婦揃って1位となりました。

(図40)

#### ◆“理想の妻”だと思う芸能人 [自由回答形式] ※上位10位まで、男女別は上位5位までを表示

全体[n=1000]			男性[n=500]		
順位	名前	名	順位	名前	名
1位	辻希美	66	1位	藤本美貴	20
2位	藤本美貴	63	2位	北川景子	19
3位	北川景子	40	3位	辻希美	12
4位	松嶋菜々子	21	4位	松嶋菜々子	10
5位	佐々木希	13	5位	佐々木希	7
6位	仲里依紗	10			
	新垣結衣	7			
7位	北斗晶	7			
	松本伊代	7			
10位	杏 / 石原さとみ 上戸彩 / 横澤夏子	6			

女性[n=500]		
順位	名前	名
1位	辻希美	54
2位	藤本美貴	43
3位	北川景子	21
4位	松嶋菜々子	11
5位	佐々木希 / 北斗晶	6



## NEWS LETTER (調査レポート)

注:本調査レポートの百分率表示は小数点第2位で四捨五入の丸め計算を行っているため、合計しても100%とならない場合がございます。

また、属性別集計において抜粋して表示している場合は、n数を合計しても全体と一致しない場合がございます。

### 《調査概要》

- ◆調査タイトル :20代・30代共働き夫婦の生活意識調査2025
- ◆調査対象 :ネットエイジアリサーチのモニター会員を母集団とする  
 全国の有職の配偶者(20歳～39歳。事実婚含む)がいる20歳～39歳の有職者(※)  
※会社員、会社役員・経営者、公務員・団体職員、専門的職業、自営業・自由業、パート・アルバイト
- ◆調査期間 :2024年11月15日～11月26日
- ◆調査方法 :インターネット調査
- ◆調査地域 :全国
- ◆有効回答数 :1,000サンプル(有効回答から男女・各年齢層が均等になるように抽出)  
 (内訳)

	20歳～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	計
男性	125s	125s	125s	125s	500s
女性	125s	125s	125s	125s	500s

- ◆調査協力会社:ネットエイジア株式会社

### ■■報道関係の皆様へ■■

本ニュースレターの内容の転載にあたりましては、  
 「ソニー生命調べ」と付記のうえご使用いただきますよう、お願い申し上げます。

### ■■本調査に関するお問い合わせ窓口■■

ソニー生命保険株式会社 調査広報部 広報課 斎藤、堀島  
 電話番号 : 03-5290-6228  
 メールアドレス : [press@sonylife.co.jp](mailto:press@sonylife.co.jp)

### ■■会社概要■■

会社名 :ソニー生命保険株式会社  
 代表者名 :代表取締役社長 高橋 薫  
 設立 :1979(昭和54)年8月  
 所在地 :東京都千代田区大手町 1-9-2 大手町フィナンシャルシティ グランキューブ  
 業務内容 :生命保険業